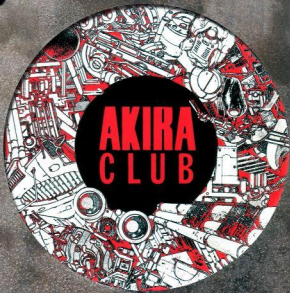


OTOMO KATSUHIRO



THE MEMORY OF AKIRA LIVES ON IN OUR HEARTS!

KODANSHA

O T O M O K A T S U H I R O



THE MEMORY OF AKIRA LIVES ON IN OUR HEARTS!

AKIRA CLUB

OSAMU KATSURAKI

『AKIRA』は1982年12月にヤングマガジンで連載を開始し、1983年3月の単行本が巻頭化で書かれた。本書はその10周年の記念冊を刊行したものであり、以下の4部で構成されている。

AKIRA ILLUSTRATIONS

このセクションには、単行本カバーイラストとヤングマガジン表紙イラストを中心に、カラー画及びそのアクション等を集めた。著者の作画意図として短いコメントを付している。

TITLE PAGE COLLECTION

『AKIRA』単行本ではストーリーの流れを優先したため、雑誌掲載時の原稿は消滅されている。このセクションにはその12冊毎分の原稿を完全収録した。その際についたのはヤングマガジンの誌面に入れた当時の関係状況である。また、単行本各巻のまとまりごとに、掲載時のタイトルロゴとリードを再現したコーナーを置いた。それと隣接して収められた見聞きのカラーイラストは、スタジオ・オリブ氏が単行本の最終巻を本書のなかに新たにカラーリングしたものである。

MEMORIAL GALLERY

本書制作中「おもしろき第セクション」と呼ばれたここには、宮武蔵ボスラー、ダヴズ、香田龍をはじめ、『AKIRA』の範囲で作られたものをほぼ網羅した。

UNPUBLISHED WORKS

連載終了後、あるいは単行本化の際に変更された、NGとなったもののカット集である。単行本収録カットを主への掲載も、著者の断念をつけた。著者の作画意図、テクニクなども読みとっていただきたい。また、作中人物のモデルなどについてもここで示されている。なお巻末には、巻末と連載時の編集陣アンケートに対する背面コメントがある。『AKIRA』というプロジェクトを完結していただけた多くの人々に、『AKIRA』がいつ時代を再現できていただければと思う。



KODANSHA
We tell our stories
from growing up.

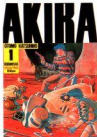


「AとIとA」新連載予告用イラスト。
サンデーマガジン 87年12月8日号に掲載。
280mm×180mm。

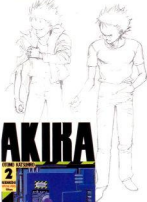
「新連載。キャラクターがまだ完成として
いる時に描いたものです。主人公が少
年ということだけは決めていましたが
これなら娘にはならぬだろうと思って
描きました」



旅行車1巻のバーイラスト。
164mm×514mm。
「バー」数と内容と絵、どれ
をとっても、アメコミ風の漂
い世界というが、ボリュームの
ある旅行車にしかたかったん
です。このイラストもボリュー
ムを出すために、意図的に
薄く塗っています。こんなに
薄く塗ったのは生まれて初め
です。



単行本1巻、初回は34年8月21日、日5期、黄色の表紙。表紙はすべて黒澤清氏など当時の書誌でセンセーションを呼んだ。「世界記録を破って、黒澤や中田隆之を倒したわけではありません。新しいものを創りたいという意気込みはすごかったです」。

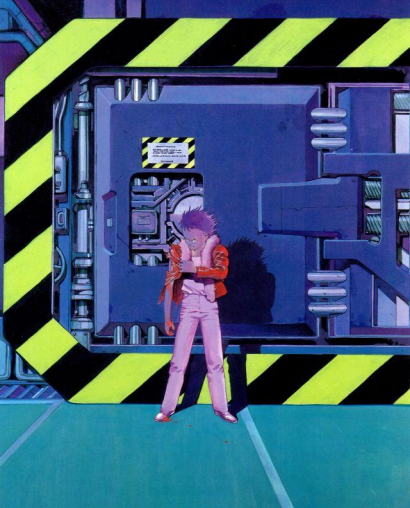


単行本2巻、初回は35年8月4日、小口の黄色表紙。左はそのイラスト。514mm×384mm。「1巻がポットなイメージ、ならば2巻はタールでいこう」と思いました。カバー裏はビジュアルです。ビジュアルのカラーイラストを定価で対応するわけで、黒澤氏のビデオも使用不可能にしてみました」。



上の3点は単行本1巻カバーデザイン案。
「デザインが決定するまでに、ずいぶん候補がかりました。ボリュームも出したし、黒澤の感じも出したし、旅行記録の速読で、候補が選れてしまいました」。
下は単行本の完成品。
「これは「黒澤」に挑戦していた黒澤清氏の「黒澤の魔王」を模倣しました。あのアメコミ風のデザインが、いつかは自分もしてみたいと思っていたのです」。







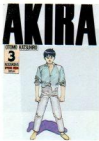
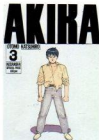
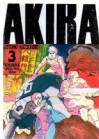
単行本第3巻の表紙プレゼント用イラスト。
726mm×1023mm。



カラーイラストのマーク画。
「巻頭挿絵を除く際には、必ずマークで試し読みをします。
全巻のイメージをつづりためには、絶対に必要な作業です」



単行本3巻。
初刷は1984年10月1日。
小のの色はオレンジ。



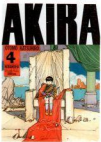
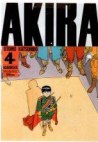
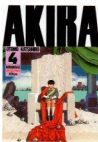
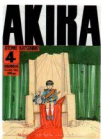
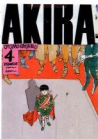
単行本3巻カバーデザイン案。
「1巻と2巻と異なる色を揃ってまたの、3巻は赤と白と黒を揃ったつもりでした。でも結局
後者はできないという理由で外れて、赤
と白と黒のエンタールカラーになりました」



東京より電カバリーイラスト。
©Tetsuya Nomura
「石段の部分の地形なグレース
がはまるようにして描いて特徴的
グレースを描きました。」

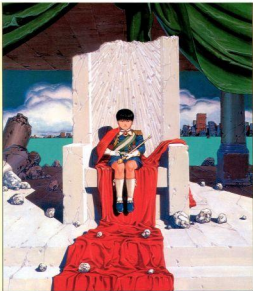


第4巻のバーイラスト下絵。



上は第4巻のバーイラスト。
初版は、87年7月14日。
下のものはバーズ。
左は第4巻のバーイラスト。
1022000724000

第4巻のバーイラストデザイン。
「第4巻のバーは1巻から動一動と変わってましたから、第4巻は動一動と変わってました。で、動一動と変わってましたけど、どうも動一動と変わってました。また動一動と変わってました。また動一動と変わってました。また動一動と変わってました。」



OTOMO KATSUHIRO



AKIRA

2020 A.D., quartier ouest d'Osaka : un futur de la zone incantée d'AKIRA se dévoile, sur la scène des ruines gronde, et un être dans la cascade déchaînée.

Le quatrième volume de nos-OSTEROS anime qui offre le regard unique des yeux d'Osaka sur les constructions tout à fait nouvelles nées d'images de la zone d'Osaka.



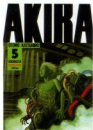
PART 4
SPECIAL PRICE
3000 yen
KODANSHA



単行本5巻カバーイラストの下絵。

「ここから色を塗っていくわけですが、単行本の仕様。つまりカラーの仕様は1年に1度程度で動きを取り替えていただけでした。特に、これは背景にある光景がなかなかうまくいかなくて、苦労した記憶があります」

単行本5巻カバーイラストのマーカ一面。「1」ボタン使ってみて。自分としてはオレンジの色が気に入っていいんですけど、周りのみんながグリーンの方がいいと言ってるんですから」

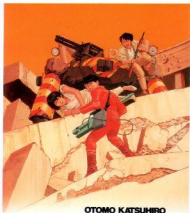


上は単行本5巻。
30年12月11日初版発行。
志はそのイラストで
314x222mm。



単行本5巻カバーイラストのラフデザイン。「4巻までのカバーイラストは内容に連動してません。5巻からは、中に収録されるシーンからイメージして描くようになりました」





OTOMO KATSUHIRO

AKIRA



This space 600 manga magazine for the best science fiction
 fiction and science of science fiction, the most popular
 of the future. It is a new era, a new era.

PART 6
 1970s
 1970s

旅行本8巻の表紙プレゼント用
 ポスター、1472mm×1120mm



上は旅行本8巻、
 31年2月11日初版発行。
 下の色は黄内、
 右はそのイラストで
 514mm×1472mm



旅行本8巻のカラーイラストのラフデザイン。
 「ラストでずからカッコよく決めたかったんです。そのせいで
 ラフの量が一番多くなってしまいました。最終の図解を正画に
 変えたいと思い、そのための、わざとらしくない改定版を考
 えるのに苦労しました。」

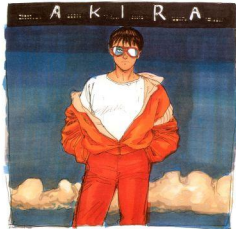




上記アニメ「AKIRA」のレーザースタック。1988年12月15日発売。
左はそのイラスト。111mm×119mm。
「レーザースタック」はコードで読まれるというところが特徴として残りました。アニメのジャケットはキャラクターを2次元で描いたものが多いので、横のアップで勝負しようと思ったわけです。

3 映画レーダーディスク
「スペシャルコレクションAKI 19A」
パイパー・ジャクストの
ラフデザインとマーカール画。

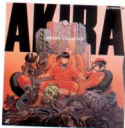




「ユーザーディスクから目当てのシーンや、何を撮ろうかなどの決まらなかつたですね。参考にファッション雑誌を見たりしました。ここにあるラフな中、どう見ても、男性ファッションモデルのポーズや顔になしてますね。同時に考えるところ、『AKIRA』らしくない。漫画家は僕（前）に拘ると、こういうことをやり始めるといふ見方です。今見ると、これはこれであつたとは思いますが。」

AKIRA

Katsuhiro MOTONO
AKIRA KIMURA 監製

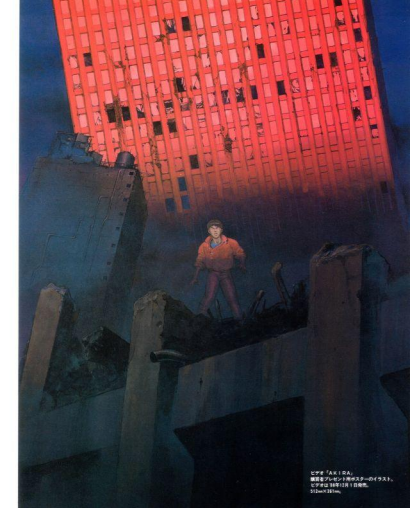


「スペシャルコレクションAKIRA」
完全パッケージ、1988年3月25日発売。
「本誌以上のラフのようにAKIRAの
ロゴが小さい方が好きなんです」

「スペシャルコレクションAKIRA」
パッケージイラストのマーク一面。
「結局こうなりました。これは完全に自分で
考えた絵です。それにしても、カラー原稿は
自分の思った通りの色になかなか印刷されま
せんね。印刷屋側の責任なんだろうが、そ
れとも使用している素材のせいなんだろう
が、10年前に買ったリネックスをあれに使
っていますが、そのせいかもしれません」



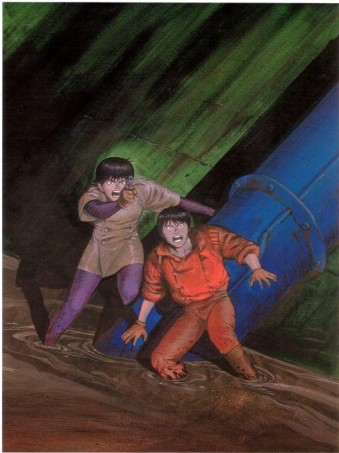
1枚組レーザーディスク
「スペシャルコレクション」第1巻、の
パッケージイラスト。314mm×318mm。



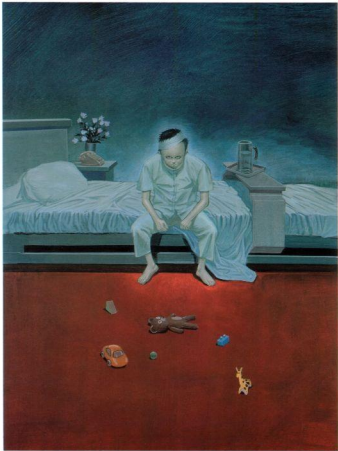
ヒザオ「AKIRA」
映画をプレゼント用ポスターのイラスト。
ヒザオは1989年12月1日没。享年
50歳。161cm。



アニメ版C「AとIのA」(巻末ページリスト)。
161mm×243mm。
「ここに描いたうちの何人かは、アニメ用に作った
キャラクターです。誰がその役割を担いますか?」



アニメKC「AKIRA」2巻カバーイラスト。
181mm×181mm。
「アニメの巻面の人がこんな色使いをしてたんです。
真似してみました。アニメ初世帯版でしょうや」



アニメに「AKI月人」3巻のイラスト。
110cm×75cm。
「上の世と下の世。分断した世界を表現したつもり
です。どちらの世界に落ちか、悩んでいるわけです」

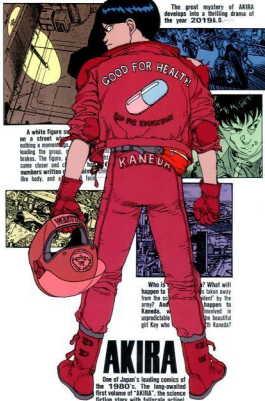


アニメKC「AKI」第A、4巻のボーイリスト。
1970年7月15日。
「アニメ」では、小さくても見立つ姿を鑑賞し
た。これなんて、いかにも数秒という感じですね。



アニメACC「AKIRA」の黒井バニーライダー。
161cm×55kg。
「アニメACCのライダーです。」と言っていますが、実は、
このライダーはほぼ同時期に撮ったのです。

The great mystery of AKIRA develops into a thrilling drama of the year 2019A.D.



A white figure seen on a street who nothing a moment ago, leading the group, brakes. The figure, came closer and numbers written like body, and a face....

Who is taken away from the army? And Kaneda, who is involved in the beautiful girl Kay who

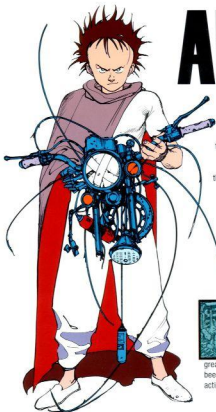
? What will happen to Kaneda? Kaneda?

AKIRA

One of Japan's leading comics of the 1980's. The long-awaited first volume of "AKIRA", the science fiction story with fullscale action!

OTOMO KATSUHIRO

AKIRA



A.D. 2020. In the western region of the great expanse of wasteland known as **Neo-Tokyo**, the **Great Tokyo Empire** which defied the mysterious **AKIRA** together with the **DAIKAKU**, declared independence.

What are the real intentions of **TETSUO** who commands the empire?



Also, what is to become of **MIYAKO**'s army, destined to overthrow **TETSUO**'s empire? Finally, what kind of fate must

KAY and **KANEDA** who is lost without a clue face. **AKIRA** has become a SF action comic of



great controversy in our time. **AKIRA** has been published serially boasting over 1000 action packed pages.

OTOMO KATSUHIRO

「シャツ」用イラスト。ヤングマガジン 1988年3月1日号の
プレゼントグッズ。
「戦場にグループを乗取るオブジェを持たせたかったの
です。うまいことバイクのヘッド部分を使いつめました。」

アニメビデオ「AKIRA」
映画版プレゼント用ポスター
の下巻。



映画プレゼント用
ポスターのイラスト。



映画プレゼント用
Tシャツのイラスト。

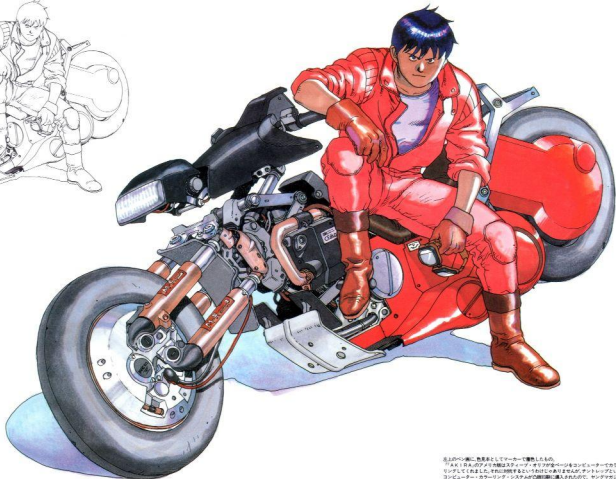
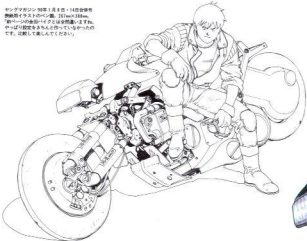


映画プレゼント用Tシャツの
イラスト。33cm×28cm。
「AKIRA」用のTシャツ、胸
のワッペンには、NHKの「YO
U」のマークが入っています。長さが
41cmが幅が41cm。



映画プレゼント用
Tシャツのイラスト。

サンダーバグシン 別冊1 第1巻・14巻合併号
 別冊イラストのページは、217mm×218mm。
 「別冊の全面イラストとは全然違いますね、
 やっぱり設定をきちんと作っていらったの
 です。比較して楽しんでください」



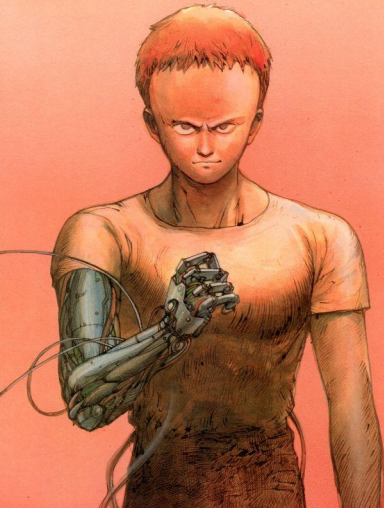
OTOMO KATSHIRO

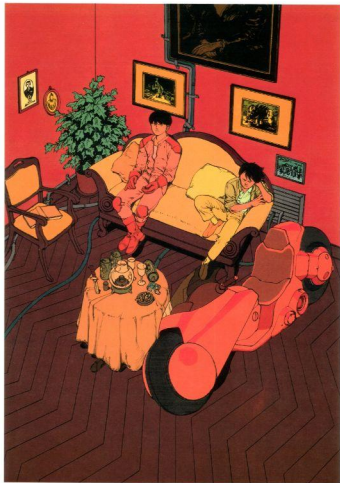
右上のページに、色紙としてメーカーで着色したもの。

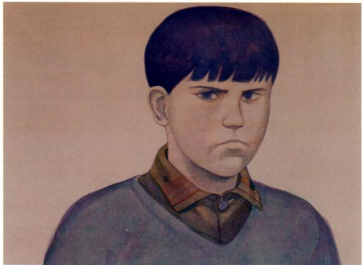
「AKIRA」のアメリカ版はスティーブ・オリフが全ページをコンピューターでカラーリングしてくれました。それに似せるというわけじゃありませんが、サントレップというコンピューター・カラーリング・システムが出版時に導入されたので、サンダーバグの別冊に着色してもらいました。それが日本で最初のサントレップ別冊イラストでした」



アニメビジュアル「AKIRA」
最新版プレゼント用ポスター
のイラスト。1/4スケール
「機は、全員のバイクは壊れ
たのに変わっている。設定
がないので自分で描いている
と、しつこい、加減なものに
なっています。」







ヤングマガジン 81年12月24日号
表紙用イラスト。181mm×213mm。
「キャラクターが固まっていないうちで描いたものです。いったいこの少年は誰なんだろうが。色味が裏に入らなかつたので、描いた後で、グレーののりーを貼っています。表紙にした時はさらにセザンヌの調を揃えました」

右はヤングマガジン 84年12月8日号
表紙用イラスト。181mm×213mm。
「イラストセッションの中でも、かなり興奮は給わと票います。ローローコロミックの執筆が起ているので、他とは調が違ふのです。しかも全部のカーンで着色しています。ちなみに右端の真ん中にある顔はアーノルド・ベックリンの「男の像」といいます。のびて見えないや」





原画サイズ215mm×181mm

「アニメ『AKI』の美術設定に、どんな世界観でやりますか?」って聞かれました。試しに一回描いたものです。その人に見せたら、こりゃあ凄いの大賞です。よって買われてしまいました。ちなみに、原簿に赤木屋というラーメン屋がありますが、あくまでもこれは架空の風景ですから」

THE MEMORY OF AKIRA LIVES ON IN OUR HEARTS!

episode 1 ~ episode 120

TITLE-PAGE COLLECTION

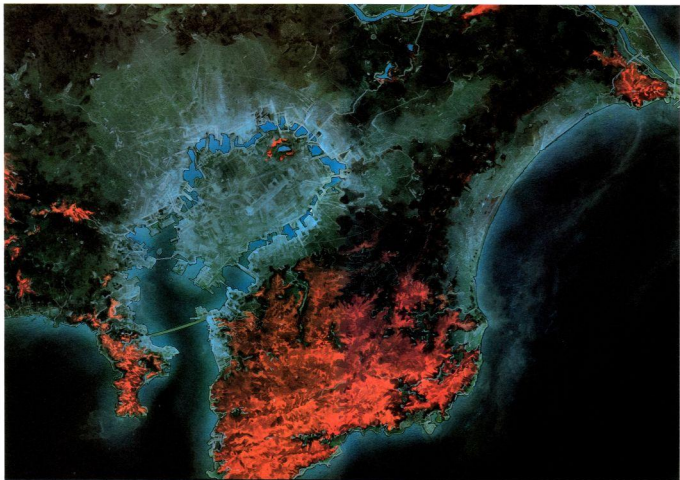
TITLE-PAGE COLLECTION

Episode 1-18



AKIRA

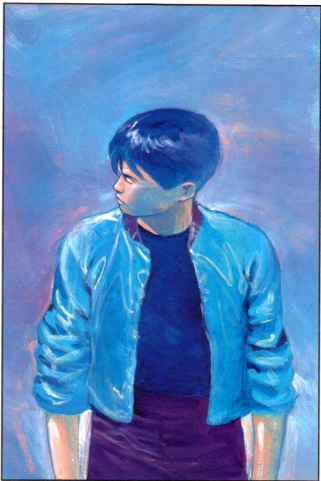




This page of Episode 001
Young Magazine (Dec. 19, '92)



「11月20日(東京)の朝日新聞
—ルビィの登場—
—朝日新聞のルビィ—」



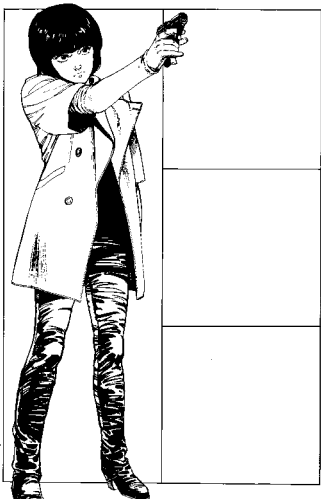
Title page of Episode 062
Young Magazine (Jan. 5, '90)

「山田のアンテナをつけて
テレビ画面を観た。面白い
んでびっくりしています。」



Title page of Episode 003
Young Magazine (Jan. 17, 1998)

「おせをひいてしまい、ノド
も痛めてしまったので、加圧
器を買いました。ゴキッ」

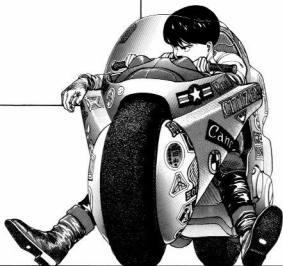


The year of Speed 104
Young Magazine Feb. 1, 1991

★
Feminist magazine
1991/10/10-1991/11/10
1991/11/10-1991/12/10

Title page of Episode 005
Young Magazine (Mar. 7, 93)

「005の機体がいちとして自分
—君、寂しい気持ちで「アキ
ラ」に乗り込んだはず。」





This page of Episode 067
Young Magazine (Mar. 21, '88)

「1987年、友人の漫画家・渡
辺明彦君の結婚式で伊豆の
下田に行ってきました。」



Title page of *Episode 008*
Young Magazine (Apr. 8, '88)

「キャラクターデザインをした
宮城大輔、上原中、よかっ
たり、観てください。」

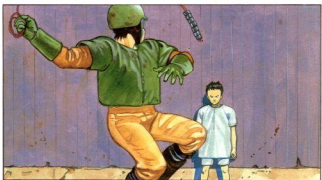
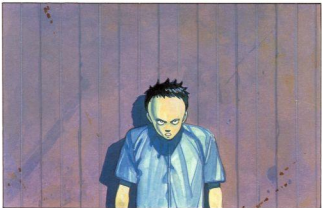


Title page of *Episode 009*
Young Magazine (Apr. 18, 1979)



「ANAHE 教習サレビの「Y.O.
」は、タイトム・リックの編が
今度、新しくなります。」

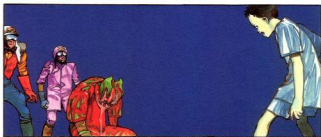


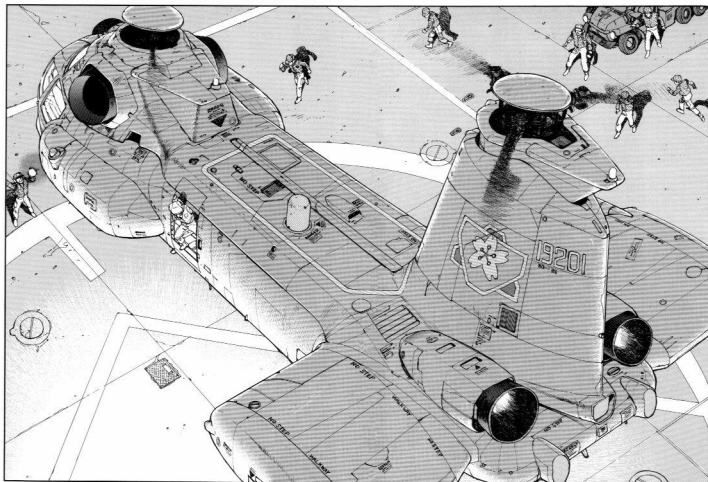


The page of Episode 616
 Young Magazine (May 2, '92)

『夢が叶かいて、ねえ
 じゃー』







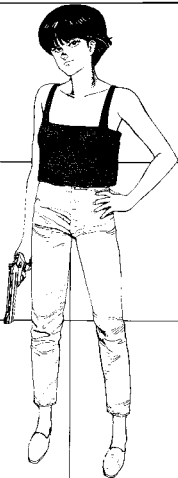
This page of Episode 012
Young Magazine May 18, 2005

「機体」を設計した「C-10-1」は
1990年に「01/18-5/22」で、
1990年の文芸春秋で公開され
た。



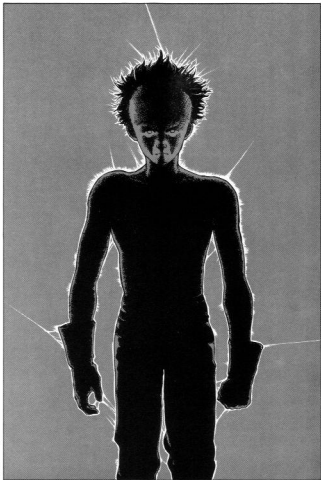
Title page of Episode 012
Young Magazine Dec 5, 92

「強盗団にもらったラジコン
カーをついには完成させまし
た。」



This page of Episode 01:
Young Magazine (pp. 25, 30)

「毎週1冊ずつ、1巻の編集を終
了した後も、夏休み明けの2月
25日の朝刊に登場した。」



Title page of Episode 004
Xing Magazine Oct. 4, 199

「多くの読者に行って、ラジ
コンカーを売らせています。」



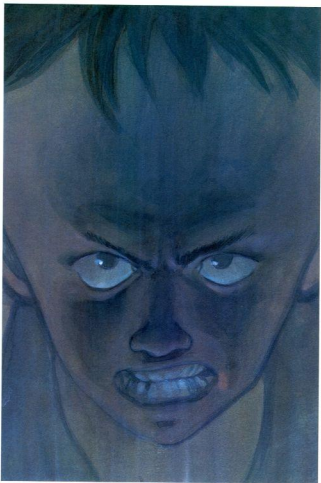
Title page of **Episode 005**
Young Magazine (Vol. 18, 19)

「バスターワーズ」を観まし
たあと、スーパーマンとウル
トラマンの対決



Title page of Episode 916
Young Magazine (Aug. 1, '93)

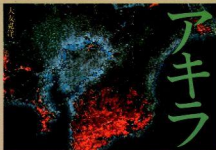
「神話の『龍夢』の扉表(日本
集社刊)の発売中です。」



Title page of Episode 018
Young Magazine (Sep. 5, '93)



「伊豆で温泉浴、まっくらみけ
になりました。」



Episode 1-18

perfect reproduction of
the title pages published
in Young Magazine

本誌SFアクション 第16回

大友克洋



本誌SFアクション 第17回

大友克洋



本誌SFアクション 第18回

大友克洋



本誌SFアクション 第19回

大友克洋



本誌SFアクション 第20回

大友克洋



本誌SFアクション 第21回

大友克洋





大友克洋



大友克洋

大友克洋



大友克洋

本誌SFアクション

第118号

大友克洋



本誌SFアクション

第119号

大友克洋



本誌SFアクション

第120号

大友克洋



本誌SFアクション

第121号

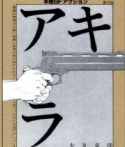
大友克洋



本誌SFアクション

第122号

大友克洋



本誌SFアクション

第123号



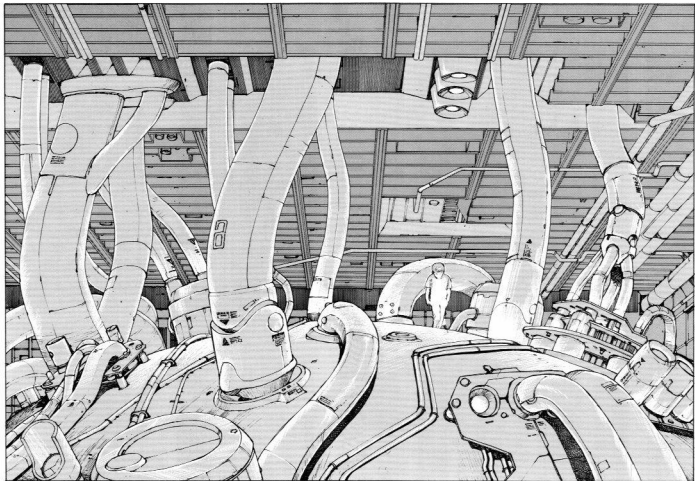
AKIRA



2

**TITLE-PAGE
COLLECTION**

Episode 19-33



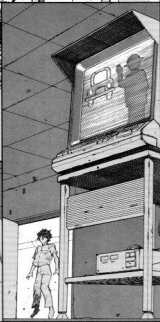
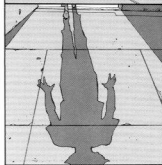
Title page of *Episode 025*
Pyoung Magazine (Sep. 18, '93)

「はあ、もういっせいで
しまつて、3D版のAもした
マッパだ」



This page of Episode 620
Young Magazine Oct. 3, 93

TRIMBELLA © 1993



Title page of Episode 021
Young Magazine (Oct. 17, '99)

「おしくなっ、愛やすくな
りました。」



This page of Episode 022
Young Magazine (Nov. 7, '83)

「仕事場のもようが又をして、
自分をはなしてあました。」



Title page of **Episode 021**
Young Magazine (Nov. 21, '93)

「壊っちゃったのでコナツも入
れました」



Title page of **Episode 004**
Young Magazine (Dec. 5, 1981)

「今日の星に買ったエアロンの
帽子が落ちていて困って
る」



Title page of **Episode 025**
Young Magazine (Dec. 10, '92)

「海外版『龍珠』(同業社刊)で
知名度を『大賞』受賞しま
した。」



Title page of Episode 026
Young Magazine (Jan. 2, '94)



Title page of *Episode 027*
Young Magazine Feb. 5, '90

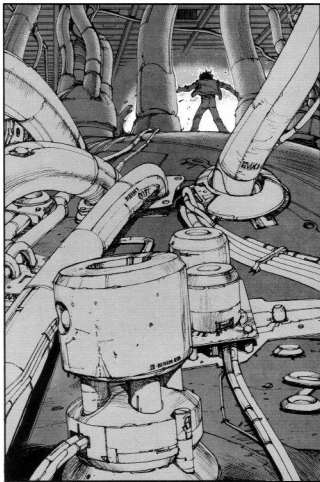
「お正月が来てワレシイです。」



Title page of Episode 028
Young Magazine (Feb. 20, '94)

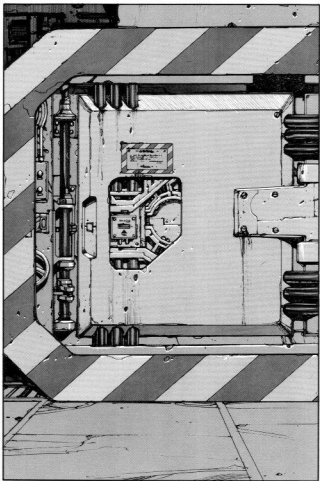


「キューブリックが映画家と
なったというラッパの
話を聞いて、うれしかった」



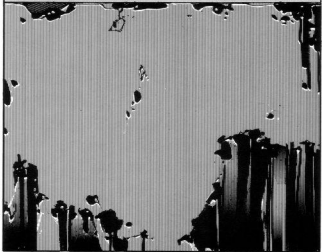
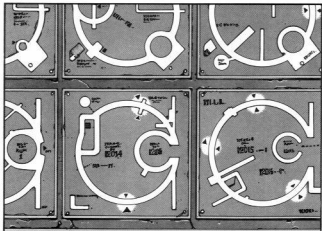
This page of Episode 009
Young Magazine (Mar. 5, 94)

「早くが完成がしたいですね」



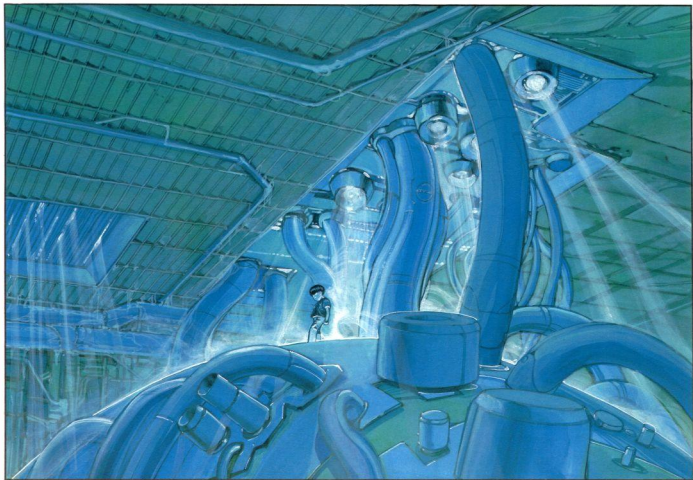
Title page of Episode 030
Young Magazine (Mar. 23, '96)

「機体作りのため、ブービーの
ことと思っています」



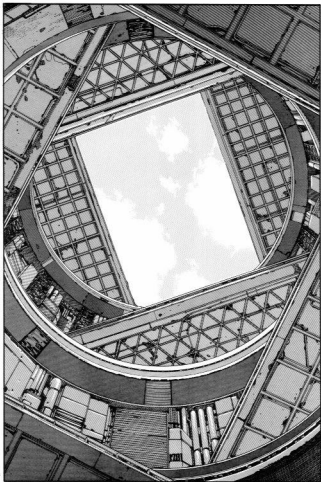
Title page of Episode 002
Young Magazine (Apr. 2, '90)

「秘蔵品は命、どうへんまで集めてるんでしょね」



Title page of Episode 812
Young Magazine (Apr. 18, '90)

「ホラーをたくさん読んで、
しやったです」



title page of *Episode 003*
Young Magazine (May 7, 94)

「そろそろお見せがててうれしい」

AKIRA

第16回のみタイトル・ロゴ。写植のプロドウェーを使用。この回からしばらく英語表記になる。「やしろあきたで覚えよう」と思っていたのと、前回から第2章に入ったので。この頃アルデコが興味で、それ迄の書体ということで決まりました。実際に載せてみたらあまり気に入らなかったの、1回しか使いませんでしたが、

AKIRA

OHTOMO KATSUHIRO

第37回〜第40回までのタイトル・ロゴ。作者名も同様の書体で「OHTOMO KATSUHIRO」の英語表記になる。「これもアルデコですが、収まりがこちらのほうがいいと思ったので。1909〜1910年代に建てられたニューヨークの摩天楼、アルデコ式のものを参照にもしています。そしてこの摩天楼、本オ東京が破壊されて、第3章「平田ロゴ」になります。さらにOHTOMOからHを抜いたのも第3章から。詳しい理由は忘れましたが、字づらが気に入らなかったのかなあ」

AKIRA

OTOMO KATSUHIRO

第72回〜第100回までのタイトル・ロゴ。作者名も同様の英語表記に。「最終章である第8部に入り、これだと思っていたものを使いました。単行本ロゴに近い「AKIRA」。本来のイメージだと思います。第40回はこのロゴのバリエーションにしたものを満堂を落として入れ、ロシア風みたいにしてみました」なお、第85回は船形にある電車をタイトル・ロゴとして使用している。

AKIRA

単行本のタイトル・ロゴ。「インパクト」という書体の上部をカットしたものを、堂々としてシンプルで、アメコミ風のバツキさがあるものとして、単行本全体のフォーマットに合わせて決められた。

アキラ

第1回〜第35回までのタイトル・ロゴ。写植の太数字遣体を使用したが、「牛」を大きくするなどボリュームを調整してある。それまでの大友作品の、シンプルをゴシックが明瞭性を小さくあしらったものとは一変した。堂々と配置された。「書体は第1回の表紙のイメージにあわせてみた。アルファベットでもよかったんですが、わかやすすきとインパクトを考えたカチカチに。3文字の配置のバリエーションをやりつくした後、第35回では昔のスタイルのように小さく入れています」なお、第38回は変形レンズで右肩斜斜にしてある。

アキラ

第40回〜第71回までのタイトル・ロゴ。漫画家平田弘史氏の平によるもので、詳細は別ページに。第40回〜第55回は作者名の代わり、
「KATSUHIRO OTOMO」が入り、第56〜第71回は漢字の「大友直海」に変わる。「書道っぽいロゴにしたかった。小さくまとめたものより、はみでていく勢いのあるものが欲しかったんです。横に書いてみると英語のようにみえるという発見がありまして、第64回はそうしてあります」

本誌SFアクション 第19巻

YOUNG

アキラ



Episode 19-33

perfect reproduction of
the title pages published
in Young Magazine

本誌SFアクション 第20巻



大友克洋

本誌SFアクション 第21巻



本誌SFアクション 第22巻



本誌SFアクション 第23巻



大友克洋

本誌SFアクション 第24巻



大友克洋

本誌SFアクション 第25巻



大友克洋

本編SFアクション

第10巻



本編SFアクション

第11巻



大友克洋

本編SFアクション

第12巻



大友克洋

本編SFアクション

第13巻



本編SFアクション

第14巻



本編SFアクション

第15巻



本編SFアクション

第16巻



本編SFアクション

第17巻



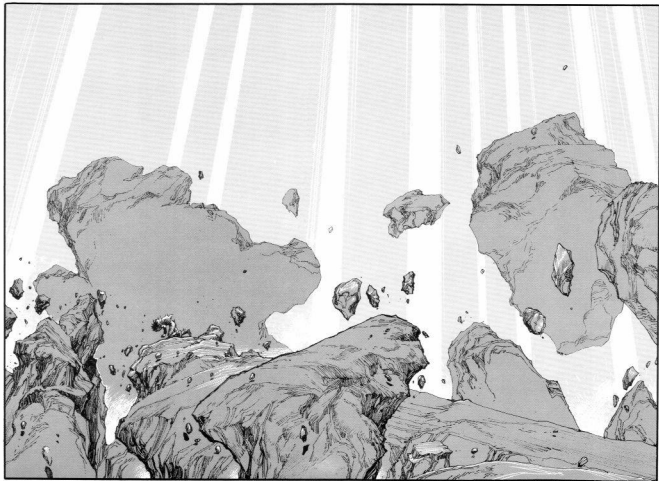
TITLE-PAGE COLLECTION

Episode 34-48



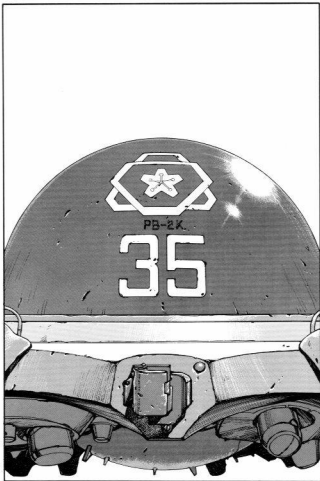
AKIRA

3



Title page of *Episode 004*
Young Magazine (May 11, '86)

「意識がよくなってきたので、運動でもしようと思っています。」



Title page of Episode 005
Young Magazine (Vol. 4, '94)

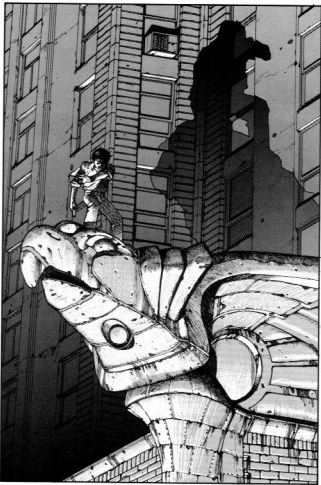
「このロケットがうまく飛んでます」



This page of Episode 016
Fighting Magazine (Jan. 18, '94)



「アメリカ」で第1回読者投票
賞を受賞しました。うれしいで
す。」



Title page of Episode 007
Young Magazine (Vol. 2, 198)

「このゲームで決着ははじめ
ました。はい、あとのサウナが
なかなかいいです。」



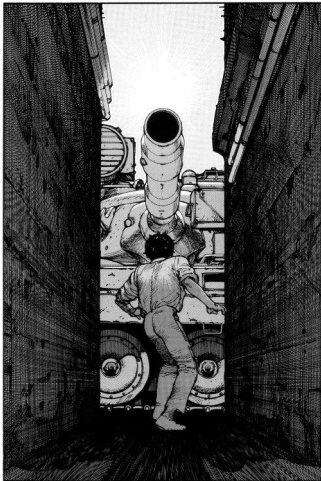
The saga of Episode 008
Young Magazine (Vol. 16, 19)

「もしや（アキ）の仲間が
出てくる」



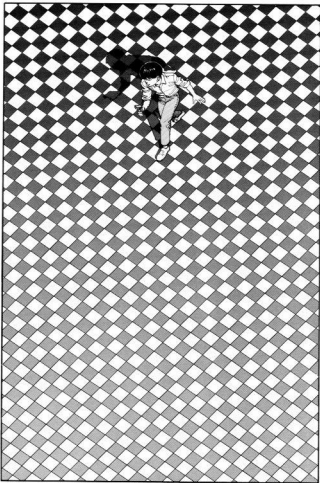
Title page of Episode 009
Young Magazine May 25, 1980

「エストリート・オブ・ファイ
ヤー」は面白く、その面白さを
見に行きたいな。」



Title page of Episode 040
Young Magazine (Sep. 3, 94)

「今年は仕事の夏、回に抱けた
人はさういいます。」



Title page of Episode 041
Young Magazine (Sep. 17, '94)

「素晴らしい3ヶ月の夏が終わって
よかったですね。」



This page of Episode 042
Young Magazine (Oct. 1, 94)

「涼しくなってきたので、30分
でもしたいですね。」



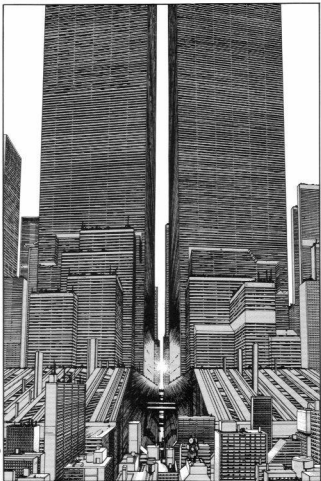
Title page of Episode 940
Young Magazine (Vol. 15, 94)

「おしくなつたので、どこかへ
旅行して楽しんでほしいですわ。」



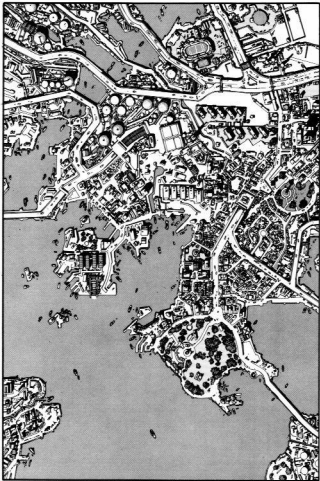
Tik van of Episode 644
Young Magazine (Nov. 5, 94)

12-5-95 20:00:00
12-5-95 20:00:00
12-5-95 20:00:00



Title page of Episode 045
Young Magazine (Nov 19, 95)

「お城に光が注ぎ込んできた
ので、うれしいですね。」



Title page of Episode 046
Young Magazine (Dec. 2, 94)

「そろそろお前の新しいのを買いに行きたいですね」



Title page of Episode 847
Young Magazine (Dec. 17, 198)

「お前達のシーゾンをせめて、お
前をひかえようと思っ
て」



Title page of Episode 048
Young Magazine (Jan. 7, '95)

「読みます、書けません、おた
やかな年の風、静けさを込めたい
と書っています」

巨大ドラマ、新展開!! アキラ

YOUNG MAGAZINE

大

友

群

アキラ

Episode 34-48

perfect reproduction of
the title pages published
in Young Magazine

本誌SFアクション

YOUNG MAGAZINE



新日本漫画家協会賞受賞作品



本誌SFアクション

YOUNG MAGAZINE



本誌SFアクション

YOUNG MAGAZINE



本誌SFアクション

YOUNG MAGAZINE



本誌SFアクション

YOUNG MAGAZINE



本誌SFアクション

第10号



本誌SFアクション

第11号



本誌SFアクション

第12号



本誌SFアクション

第13号



本誌SFアクション

第14号



本誌SFアクション

第15号



本誌SFアクション

第16号



本誌SFアクション

第17号



AKIRA



**TITLE-PAGE
COLLECTION**
Episode 49-71



AKIRA

AKIRA

AKIRA

AKIRA

「AKIRA」第3巻のタイトルロゴは漫画家、平田弘史(ひらた・ひろし)氏の華文字である。平田氏は「漫画士魂」(月刊別冊)、'富野義士魂'などの代表作を持つ時代漫画の作家で、大友氏が弘史を漫画家の一人、独断なドラマー性、芸術にして芸術な性格とともに、平田弘史の才能である「おのれ一」「うぬ一」「あまふ一」と思いのたけを叩きつけるような雄大な文字で、第3巻のテーマである大友氏の世界的責任の「アノルなイメージ」に込められているので、ロゴを依頼してあげようということになった。

1985年1月、平田弘史が弘史を仲介、富野義士魂の非難に陥った仕事で「第3巻」に集まるくまのりくを整理し、エッセイとばかりにたまたま数十種類のロゴをものにしてくださった。ここに収録したのはその一冊である。「AKIRA」第3巻の1冊目(第4巻)の扉ページを飾ったのは、その中から大友氏が選んだ決定版。「昭和/平田弘史」と銘打たれたこのロゴは、江戸時代から大友氏にいたる、一冊で話題を呼んだ。また、この時の歴史がきっかけとなって、大友氏は後に「平田弘史選集」全3巻(日本放送出版)のデザインを手がけることになり、同書には「副編『大友義士魂』」とある。

「題字/平田弘史」通称「平田ロゴ」について。

K A T S U H I R O
O T O M O ' S



PART 3



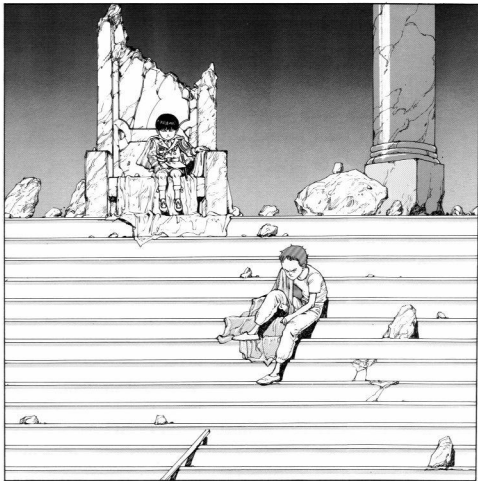
ROOM
COMBAT WITH
STUDIO AFTERNOON

夢平平記



For page of School Old
Young Magazine No. 1, 1991

For page of School Old
Young Magazine No. 1, 1991



The page of Episode 090
Young Magazine (Mar. 18, '95)

「君はあの見かたで生きて暮ら
うらしいですね。」

Title page of Episode 951
Young Magazine (Apr. 3, 99)



「オチオチと暴行するの事は悪くとも
めに入力したいと思っています。」



The page of Episode 051
Young Magazine (Apr. 11, 90)

© 1990 SHOGAKU SHINSHA
All Rights Reserved



Title page of Episode 051
Young Magazine (May 8, '90)

「仕事場に遊びに来て、結構話を
ひーくりかえしたりして、遊ん
でいます。」

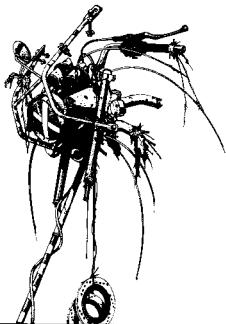


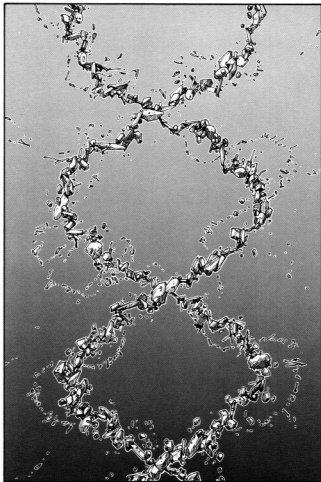
The cap of Episode 554
Young Magazine (May 25, 92)

THE UNIVERSITY OF
THE SOUTH ALABAMA

Table page of Episode 05:
Rogue Magazine (Jan. 1, '90)

イラストレーターは、
この雑誌に描いて
います。





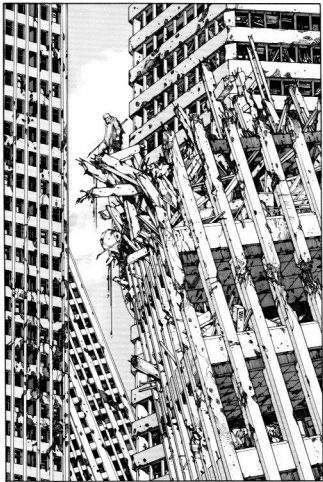
Title page of Episode 056
Young Magazine Jan. 27, '89

「どこかにあじさいでも園に行きたいですね。」



Title page of Episode 057
Young Magazine (Aug 5, 98)

Illustration by Katsuhiko Arai
© 1998 Shueisha Inc.



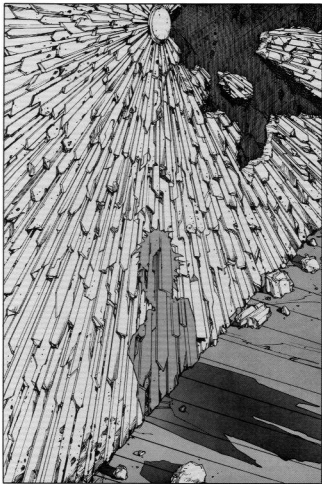
Title page of Episode 058
Young Magazine (Sep. 2, 95)

「メロネがこれだったので驚い
のを見てうと思っています」

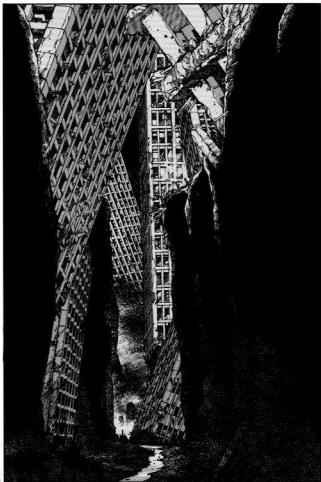


Title page of Episode 009
Young Magazine (Sep. 15, '94)

「お前が」アキラの顔の
裏で「お前が」アキラの顔の



Title page of *Episode 000*
Young Magazine (Oct. 7, '88)



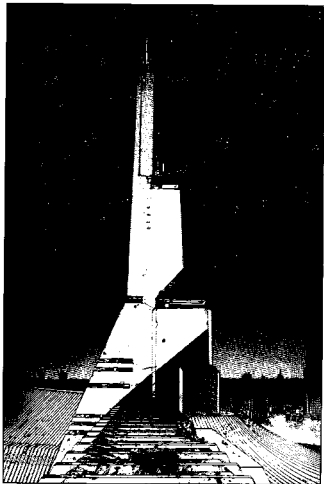
Title cover of Episode 061
Young Magazine (Nov. 4, '93)

「おもしろいし、感動したので、
お金の面でもしつてあげた。」



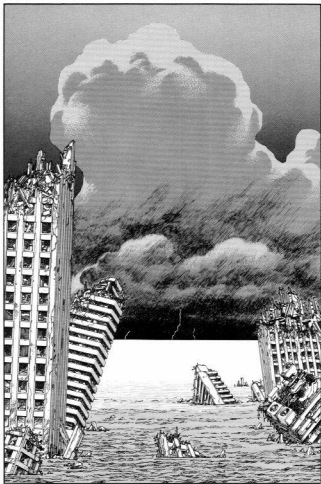
title page of Episode 062
Young Magazine (Nov. 15, '90)

「この世界だと勝つために、も
う手がはいらん、ですね」



This page of Space 645
Young Magazine, Inc. ©

•
* 印刷部出版 C.A. 8 12



This page of Episode 64
Young Magazine (Dec. 18, 92)

「このころ山崎の山崎屋に
コピーした」



Title page of Episode 005
Young Magazine (Jan. 6, '90)

「社会の事象なので、今年こそ終わらせたいようにしたいですね。」



The case of Episode 686
Young Magazine 1146-76762

「黒い」の「黒」は「黒」の「黒」
「黒」の「黒」は「黒」の「黒」
「黒」の「黒」は「黒」の「黒」



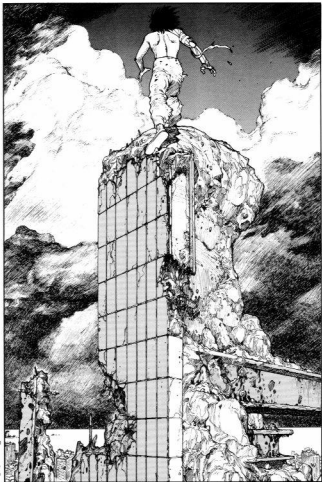
Title page of Episode 063
 missing adaptation Feb. 17 '86

「話を聞いて、私が思っている、
レーザーアンプと、やはり
あのまま、買った。」



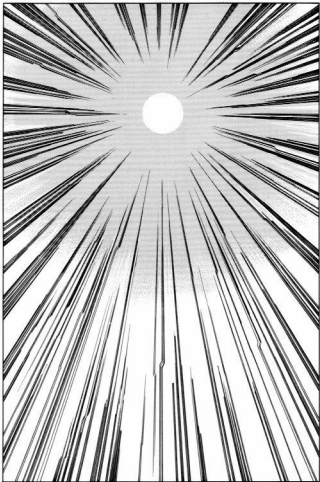
Title page of Episode 058
Young Magazine (Mar. 3, '90)

「去年からつくっていた地盤が
ニメーションが、そろそろ完成
の地二枚です」



Title page of Episode 003
Young Magazine (Mar. 27, 1983)

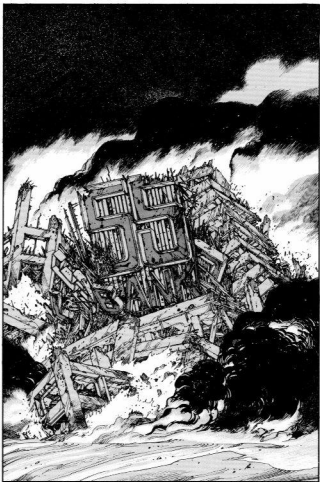
「この瞬間の瞬間に、
瞬間を刻みつけてきた。」



This page of Episode 070
Young Magazine (Apr. 7, '96)



「この瞬間のイメージを
2001年12月15日に、1
ショットにもなりません。」



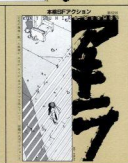
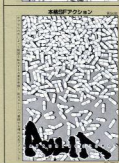
Title page of Episode 011
Young Magazine (Apr. 21, 96)

『東山道に出すイラスト量の多
くをしていますが、お返しに待っ
て下さい。』



Episode 49-71

*perfect reproduction of
the title pages published
in Young Magazine*



本編BFアクション

第12話



本編BFアクション

第13話



本編BFアクション

第14話



本編BFアクション

第15話



本編BFアクション

第16話



本編BFアクション

第17話



本編BFアクション

第18話



本編BFアクション

第19話



本編BFアクション

第20話



本誌BFDアクション

BFD-01



本誌BFDアクション

BFD-02



本誌BFDアクション

BFD-03



本誌BFDアクション

BFD-04



本誌BFDアクション

BFD-05



本誌BFDアクション

BFD-06



本誌BFDアクション

BFD-07

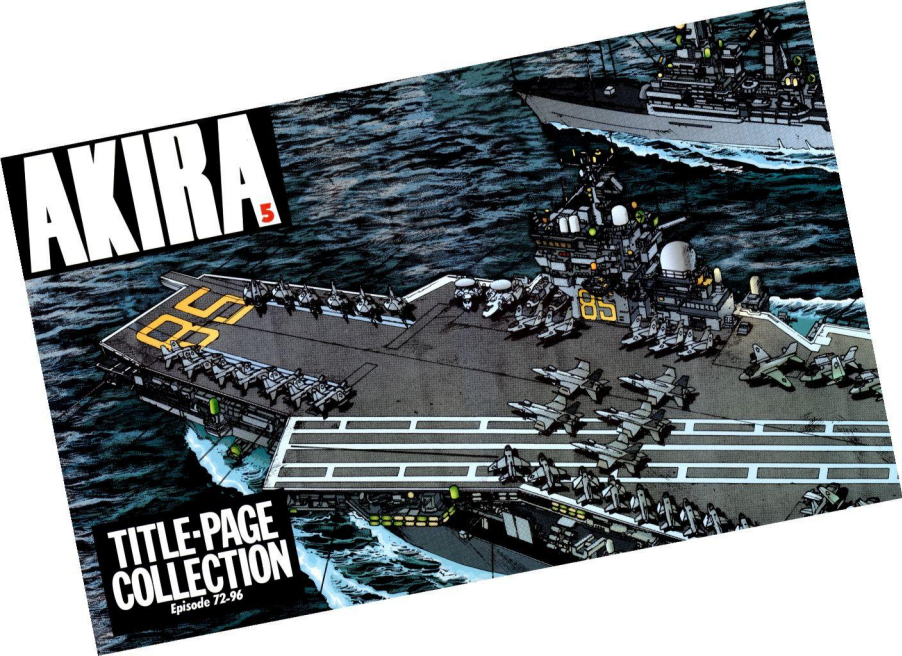


本誌BFDアクション

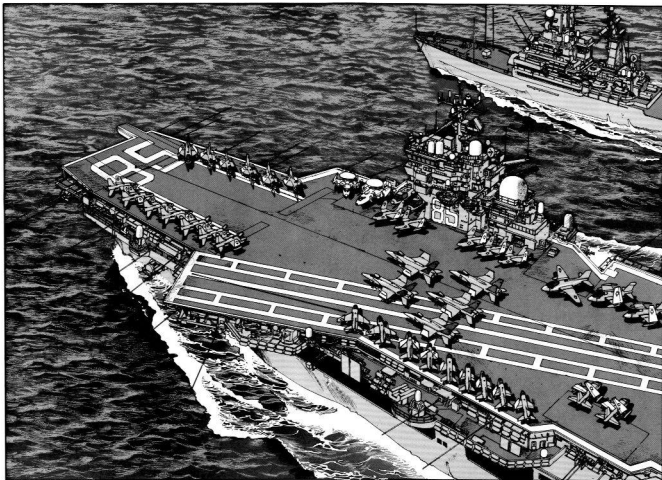
BFD-08



AKIRA 5

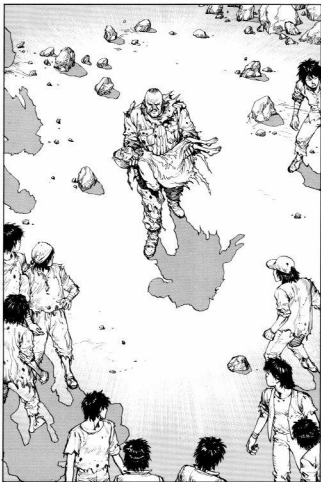


**TITLE-PAGE
COLLECTION**
Episode 72-96



Title page of Episode 02
Young Magazine (May 19, 96)

「アキラの機体は目の黒いままに
死ぬまで、もうすぐです」
との言葉が、アキラ



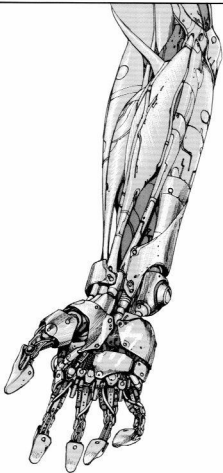
Title page of Episode 073
Young Magazine (Jan. 24, '96)

「お前等に会って良かったです。お前等は偉いです。」



Time page of Episode 074
Young Magazine (Jul 7, 1993)

「お入りの郵便物がなつぱり来てあったので、出陣してきました」



Title page of Episode 016
Young Magazine (Aug. 4, 98)

「ゾールに付きたいな」と思っ
ています。」



Title page of Episode 077
Young Magazine (Sep. 11, '96)

「自分の未来に手を付けよう
かな」と思っています」



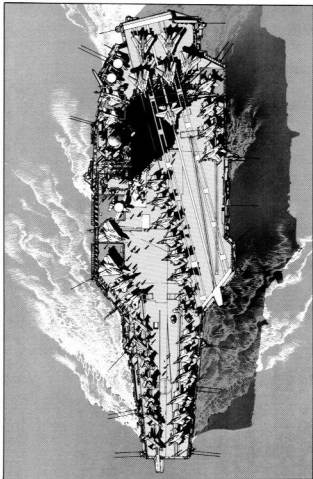
This page of Episode 078
Young Magazine (Oct. 6, '90)

Copyright © 1990 by Shueisha Inc.
All Rights Reserved



This page of Episode 879
Young Magazine Dec 3, 1990

「大膽にしていたパン屋が閉めて、また一から建てなおさなければなりません。」



Title page of *Episode 080*
Young Magazine (Nov. 17, 90)

「艦ニムレ・スリー・ボーアが居
居きになりました」



Title page of Episode 001
Young Magazine (Dec. 1, 96)

キャラクターデザイン監修 宮崎 昌宏
& Co.



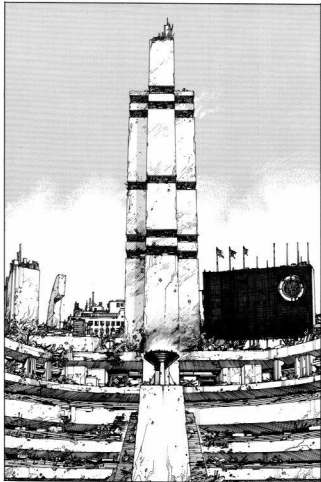
Title page of Episode 002
Young Magazine (Dec. 15, 1961)

「今年も一年仕事で疲れようとしていますが、2024年に向けてです。」



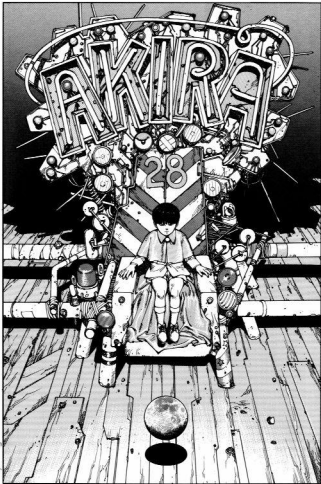
Title page of Episode 083
Young Magazine (Jan. 5, '97)

「4巻は天竺や東南部のワイルドな世界で仕事をしています。」



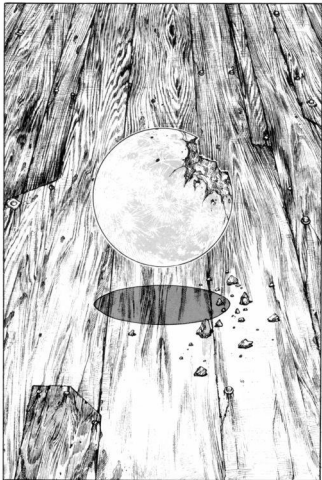
Title page of Episode 048
Young Magazine (Iss. 18, 93)

「はい、聞かなくていいんです」



Title page of Episode 085
Young Magazine (Feb. 16, 1979)

「僕が描くてクスリを解んでい
ます。」



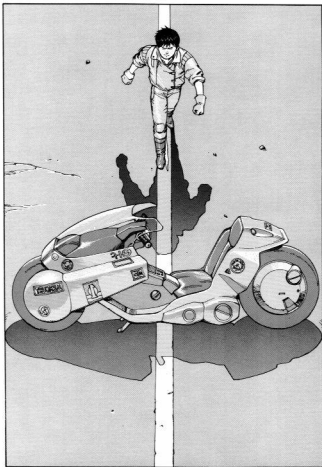
Title page of Episode 006
Young Magazine (Apr. 5, '97)

「アシスタントがイバコもやめたので、空想のきれいな夢を描きだせそうです。」



Title page of Episode 067
Young Magazine (Apr. 30, 87)

「アキラのアニメ映画化準備のため、2枚付はと替まっていた
がきます。」



Title page of Episode 588
Young Magazine (Nov. 21, 50)

「まだ誰も見直した訳ではな
く」



Title page of *Episode 089*
Young Magazine (Dec. 5, 1989)

「前巻の描いた結末「クロス
さんのおみせ」が当たったのでうれ
しいです」



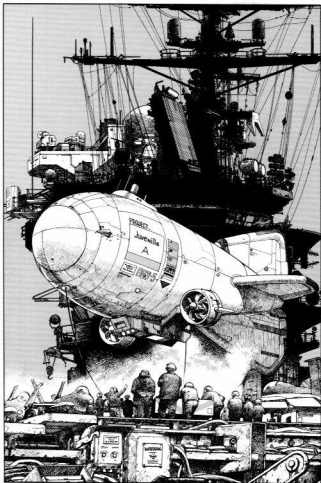
The page of Episode 090
Young Magazine (Dec 19 '96)

「スラムに帰って行って、C
のヤイッパに書いてもらった」



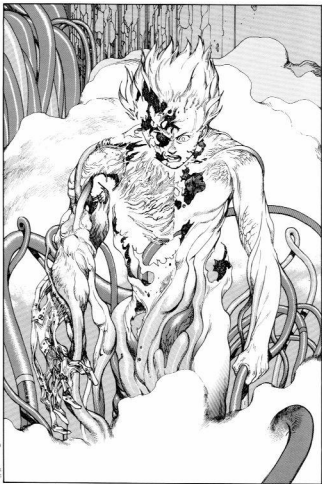
Title page of Episode 081
Young Magazine (Jan. 26, '88)

「アニメアキラ、第81話の
ため、アメリカ版雑誌に
登場しました。」



Title page of Episode 092
Young Magazine (No. 6, 1991)

「風船をひいて大空ですげと戦
争会には行きたくない」



Title page of Episode 093
Young Magazine (Feb. 20, 99)

「サムライ・ダーク」の黒い部分の
もしもからいた、おれらの物語
です。」



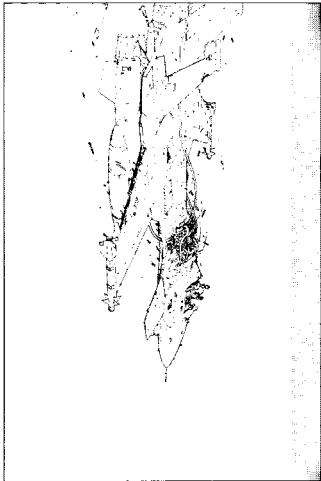
Title page of *Epistola 154*
 Young, *Magnum* (Mar. 6, 1717)

平成17年度は、引き続き、この3つの重点分野に力を入れ、この3分野を軸として、さまざまな施策を展開してまいります。

1509

The page at Epistol 177
Young Magazine 1821.

THE
END OF THE
AND THE END





Site scene of Episode 096
Young Magazine (Apr. 2, 99)

「資料の記念ポストカードを贈って
ください。しんどかったです」

重々パート4突入! アキラ

YOUNG



Episode 72-96

*perfect reproduction of
the title pages published
in Young Magazine*

本誌SFアクション

第72号



本誌SFアクション

第73号



本誌SFアクション

第74号



本誌SFアクション

第75号



本誌SFアクション

第76号



本誌SFアクション

第77号



本編SFアクション

第1巻

AKIRA

OTOMO KATSUHIRO



本編SFアクション

第2巻

AKIRA

OTOMO KATSUHIRO



本編SFアクション

第3巻

AKIRA

OTOMO KATSUHIRO



本編SFアクション

第4巻

AKIRA

OTOMO KATSUHIRO



本編SFアクション

第5巻

AKIRA

OTOMO KATSUHIRO



本編SFアクション

第6巻

AKIRA

OTOMO KATSUHIRO



本編SFアクション

第7巻

AKIRA

OTOMO KATSUHIRO



本編SFアクション

第8巻

AKIRA

OTOMO KATSUHIRO



本編SFアクション

第9巻

AKIRA

OTOMO KATSUHIRO



本誌SFアクション

第100号



本誌SFアクション

第101号



本誌SFアクション

第102号



本誌SFアクション

第103号



本誌SFアクション

第104号



本誌SFアクション

第105号



本誌SFアクション

第106号



本誌SFアクション

第107号



本誌SFアクション

第108号



タイトルページNGコレクション

NG原稿については後で詳しく特載しているが、タイトルページのNGはここに集めてみた。劇団員の壁に相当するのとは違って言われないので、当時の文芸部の心の中(端的初りとアーティスト魂のやめまあい!)を想像しながら読んでください。



AKIRA

A detailed illustration of a futuristic city street in Akira. The scene is viewed from a low angle, looking down a wide, snow-covered road that stretches into the distance. On the left, a large, multi-story building with a grid-like facade stands prominently. To its right, a series of smaller, more classical-style buildings are partially covered in snow. In the center, a bright, glowing orange and yellow light emanates from the horizon, creating a strong lens flare effect. On the right, a massive, dark, and complex skyscraper dominates the skyline. The sky is a solid, vibrant orange. In the foreground, a line of small, dark figures, possibly motorcycles or people, is visible on the road, moving towards the light. The overall style is reminiscent of classic comic book art, with bold lines and a high-contrast color palette.

6

TITLE-PAGE COLLECTION

Episode 97-120



Title page of Episode 297
Young Magazine (May 1, 1998)

「今も、お前を、ついに、ついに、」



Title page of Episode 008
Young Magazine (May 22, 1988)

「スクリーン・オリファントから、ニ
ューエイジミュージックの
音楽をもらいました」



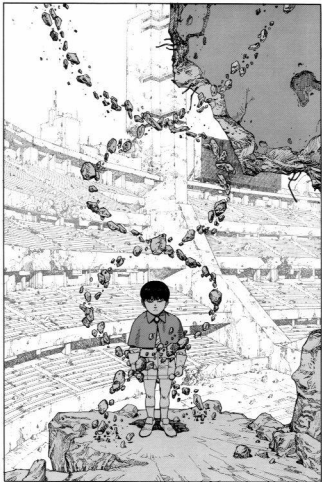
Title page of *Episode 009*
Young Magazine (Jan. 5, 1991)

「仕事やにながやず巧さんの陣
中見舞いで来てくれました」



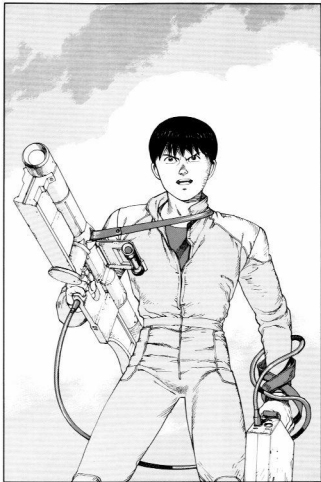
The page of Episode 100
Young Magazine Jan. 18, '96

（裏表はカラーページです）



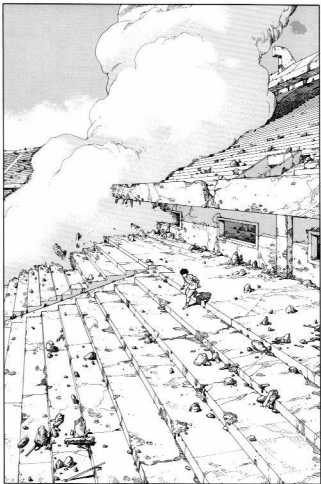
title scene of Episode 101
Young Magazine Oct. 1, 1990

「人間ドックの結果で病気を知
ってしまったので、避難をした
いと愚いします」



Title page of Episode 332
Young Magazine (Vol. 17, 99)

「盗賊大ニ由リ世界級」が雑誌社
編集者もとらなかつたのが現
在です。



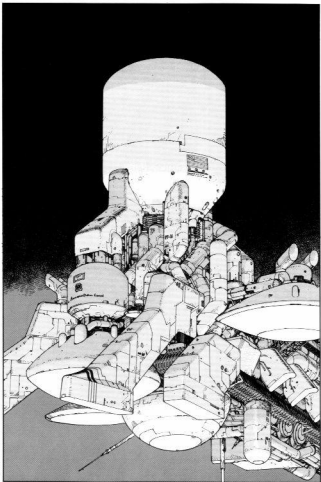
Left page of Episode 103
Flying Magazine Vol. 31, 199

「それはもっと別のことで、それは
 〇〇」と言うのは別な話なんですよ。」



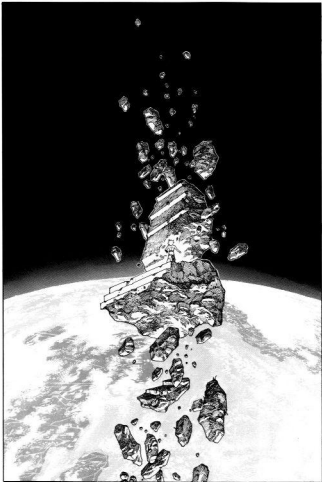
Title page of Episode 104
Young Magazine (Aug. 21, 1985)

「イリスと私の関係がすべて終わりました。あとは世界と私が戦うばかりです。」



Title page of Episode 305
Young Magazine (Sep. 4, 1999)

「2000年アキラのカラーリスト
のスクリーン・オリフが暴息、
家に遊びに来ました。」



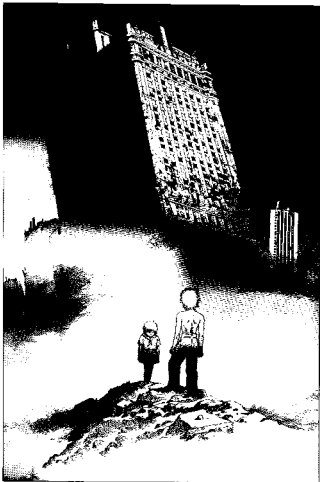
Title page of Episode 106
Young Magazine (Sep. 18, '99)

「吉村中の数学教師?もし、の
がなくなるのが寂しいです」



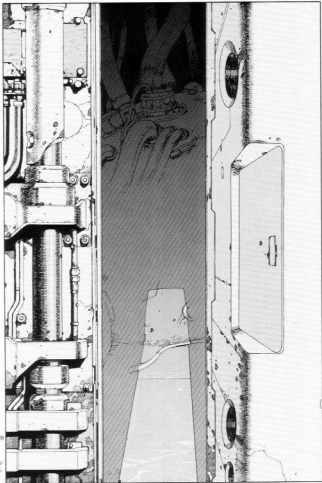
Title page of Episode 107
Young Magazine (Oct. 30, '98)

「この瞬間から、世界は
変わっていった。それ
が、」



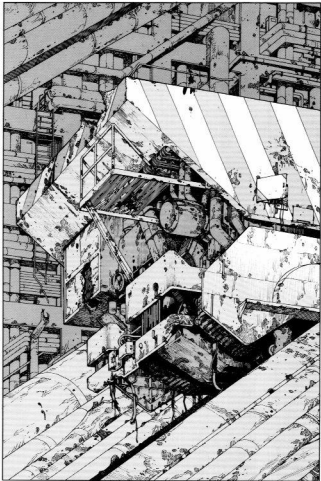
100 pages of Episodes 106
of my television show (1,000)

1000 pages of Episodes 106
of my television show (1,000)



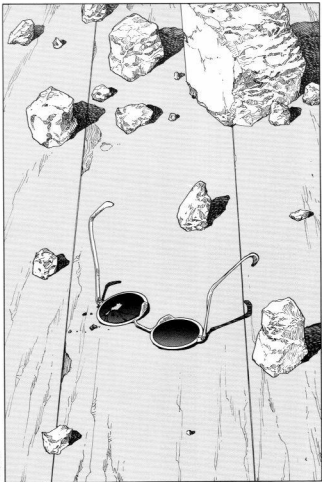
two pages of Episode 109
Young Magazine (Nov. 27, 99)

「この作品のシリーズ、読者が
あまりに構わない興味がし
たのでうれしい」



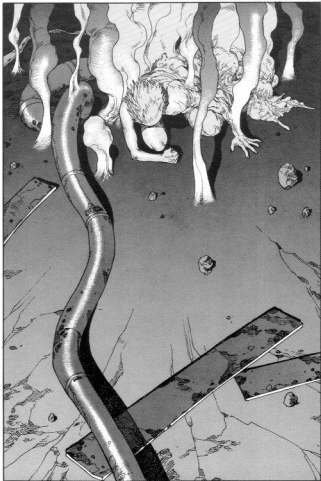
Title page of Episode 118
Young Magazine (Dec. 11, '99)

「大船を倒して行ったが、いへん、
のがないのだから、14のベル
リンのコースに移動して海
を渡るために、イサを倒した。」



Title page of Episode 111
Young Magazine
(Jan. 9-14, '90)

「アニメ」Aと「R」Aの制作陣
が揃っていた理由が、この
テレビのヤングマガジン大賞
を受賞したので賞状であっ
てはいい」



Title page of Episode 112
Young Magazine (Jan 23, '90)

「今更に言っても遅いものだから
さかT」



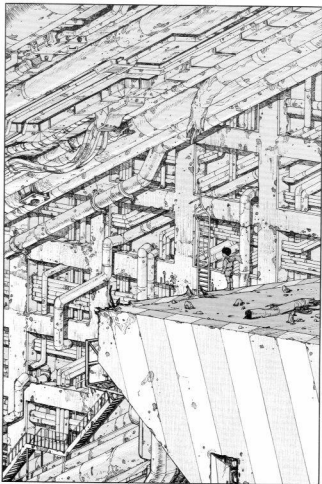
Title page of Episode 133
Young Magazine (Feb. 8, '90)

「機体と顔面を繋ぐオカリナ
アルファビータを製作中です。」



Site page 17, Edition 124
Young Magazine of Feb. 28 '99

このページの著作権は、
1999年2月28日まで、



Title page of Episode 115
Young Magazine (Mar. 5, '90)

「この世界のメカニクスは、
すべてが機械で動く。」

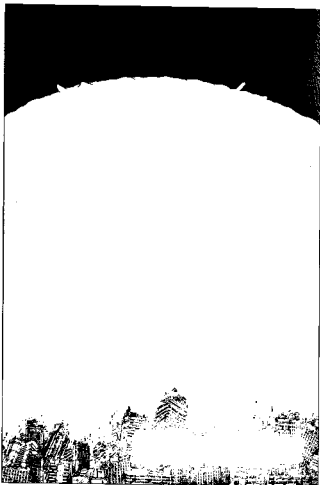


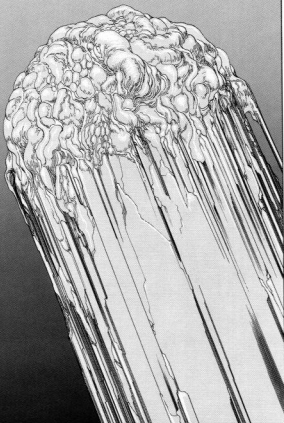
Title page of Episode 116
Young Magazine Apr. 2, 98

「仕事場のCDプレーヤーが動
作しすぎてバカになった」

The year of Edward III
Young Magazine (May 21, 93)

Copyright © 1993 and
1994 by The Editors of
Young Magazine, Inc.
All rights reserved.

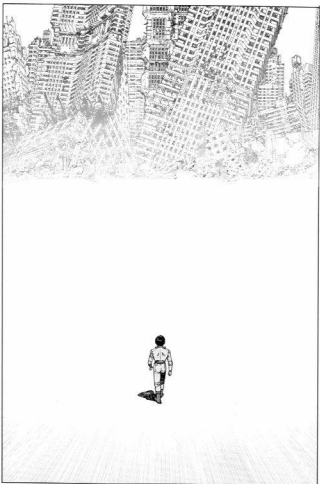




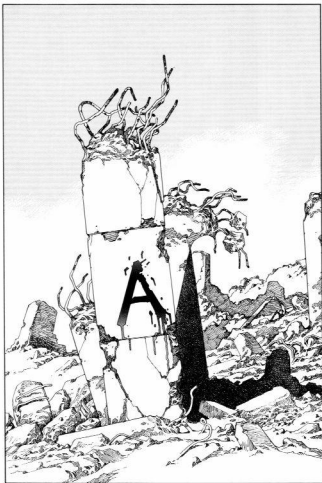
Title page of Episode 118
Young Magazine (May 28, 1991)



「オーストラリア・ジャズ・アリス・
ジョンソンを襲撃して見ました。
非常に良かったです。」



Title page of Episode 129
Young Magazine (Nov. 11, '90)



File page of Episode 120
Young Magazine Jan 25, '90

本誌SFアクション

第97号



本誌SFアクション

第98号



Episode 97-120

*perfect reproduction of
the title pages published
in Young Magazine*

本誌SFアクション

第99号



本誌SFアクション

第100号



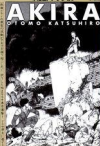
本誌SFアクション

第101号



本誌SFアクション

第102号



本誌SFアクション

第103号



本誌SFアクション

第104号



本誌SFアクション

第100号



本誌SFアクション

第101号



本誌SFアクション

第102号



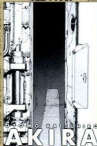
本誌SFアクション

第103号



本誌SFアクション

第104号



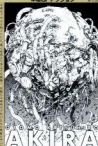
本誌SFアクション

第105号



本誌SFアクション

第106号



本誌SFアクション

第107号



本誌SFアクション

第108号



本編SFアクション

第1巻



本編SFアクション

第2巻



本編SFアクション

第3巻



本編SFアクション

第4巻



本編SFアクション

第5巻



本編SFアクション

第6巻



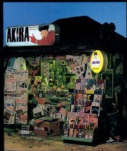
本編SFアクション

第7巻



MEMORIAL GALLERY

poster, leaflet, goods, and others



の

黙

示

録

the Apocalypse

アキラノメザメハチカヅイタ。

連載1周年直前特別カラー

AKIRA

アキラ/K・OHTOMO

第3次世界大戦後のネオ東京にくり広げられる
本格SFアクション。地下深く張りつづける
アキラとは、はたして異なるのか?アキラが
目覚めると、いったい何が起るのか?
ドラマはいよいよ漫画史上かつて
なかった巨大な熱心へと
つき込んでゆく……



ヤングマガジン
YOUNG
Magazine



★毎月第1・第3月曜日発売

★定価200円

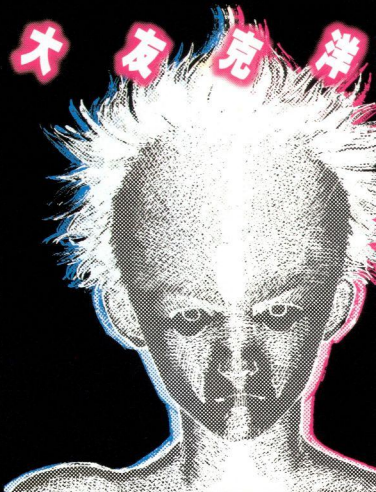
講談社

大

友

亮

洋



★No.22 11月21日号 ★ドラマチックに発売中!

NOW AKIRA IS WAKING UP!

NEO SUPER ACTION

アキラ

KATSUHIRO
OHTOMO

AKIRA

ILLUSTRATION BY KATSUHIRO OHTOMO

YOUNG



ヤングマガジン 33年5月2日号の電撃中取りポスター。
イラストは第4回、第5回、第8回の挿絵を組み合わせたもの。

100万Vの「アキラ」ショックだぜ!



ヤングマガジン 33年5月2日号の電撃中取りポスター。
イラストは第4回、第5回、第8回の挿絵を組み合わせたもの。

「アキラ」
大友克洋

本年度最終最大の「アキラ」シリーズ新連載

第三次大戦カラ三十年
復興シツツアル日本ニ
オソルベキ少年アキラ
ガメザメタ

実力作家連続シリーズ・三山のぼる
舞子ミステリ明日

ヤングマガジン
YOUNG

※キニにスペシャル大感謝! アメリカ
輸入決定版「E.T.」映画をプレゼント
海外第1部3月25日発売 定価200円
ミステリアスに発売中/既刊21

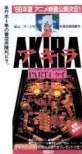
「AKIRA」新連載を告知するヤングマガジン
33年12月26日号の電撃中取りポスター。
同年の挿絵用イラストを流用。ただし、挿絵は
この前にセザイク牧原を描いている。



サンダムガシン 18年11月10日号の電撃中流りボスター。
同号の表紙用イラストを流用。



サンダムガシン 18年12月10日号の電撃中流りボスター。
同号の表紙用イラストを流用。



号外 3巻の巻頭挿絵に、
同にサザンの表紙も作られた。

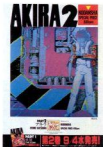




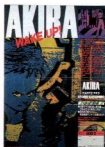
選ばれることの多かった大友作品が予定通り出ることもアピールする写真予告。



ヤングマガジン 34年3月15号に掲載された単行本1巻の発売予告記事。



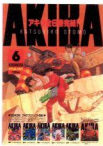
ヤングマガジン 33年1月18日号に掲載された単行本2巻の発売予告記事。



ヤングマガジン 33年8月2日号に掲載された単行本2巻の発売予告記事。



ヤングマガジン 34年10月1日号に掲載された単行本1巻の発売予告記事。



ヤングマガジン 33年6月15日号に掲載された単行本6巻の広告記事。



ヤングマガジン 33年1月15日号に掲載された単行本6巻の発売予告記事。



ヤングマガジン 33年1月1・7日合併号に掲載された単行本1巻の発売予告記事。





数ある「AKIRA」グッズの中
 でも、最も多く製作されたのはT
 シャツ・トレーナー類であった。
 「Akira」Tシャツは今でも愛用し
 ています。上の単行本表紙を使っ
 たTシャツは、3巻のものからに
 じがなくなって、すごくいい色
 が出まふようになりました。でも読
 者プレゼント用Tシャツは売って
 見かけませんね。みんな着ないで
 保存しているんでしょうか。結構
 よく見かけるのは海軍服Tシャツ
 です。空母や戦艦のデカメバー
 で若い人が着ているのを見ると、
 「へー」という感じがします。そ
 れから、日サレズでスティー
 ブ・オリアさんに会った時、彼が
 読者プレゼント用Tシャツを着て
 いるのには驚きました。どこで入
 手したんだろう！



サンダマガジン 38年1月16日号の巻頭プレゼント用には「AKI 1人」アートバックが制作された。同誌1996年のサンダマガジン増刊号に「AKI 1人」アートバックが制作された。同誌1996年のサンダマガジン増刊号に「AKI 1人」アートバックが制作された。同誌1996年のサンダマガジン増刊号に「AKI 1人」アートバックが制作された。

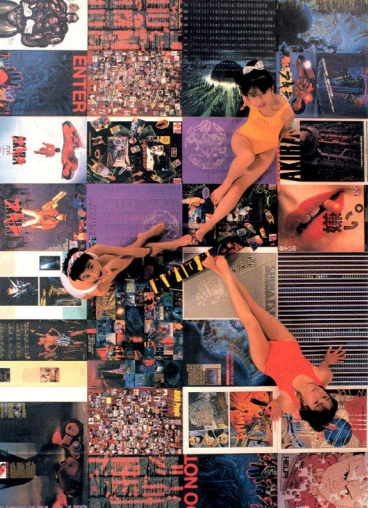


サンダマガジン 38年1月16日号の巻頭プレゼント用には「AKI 1人」アートバックが制作された。同誌1996年のサンダマガジン増刊号に「AKI 1人」アートバックが制作された。同誌1996年のサンダマガジン増刊号に「AKI 1人」アートバックが制作された。同誌1996年のサンダマガジン増刊号に「AKI 1人」アートバックが制作された。



アートバッグのサイズは430mm×421mm。
「キャタクタータックス」にはしたくありません
でした。みんなが実際に使えるようなバッグ
にしたかったんです」

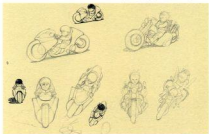
「僕は顔が多いのですが、後ろがゴムにな
っているグリーサイズなので、ちゃんと入り
ました。でも似合いません。やっぱり帽子は
顔の小さい人が似合うなー、と思いました。」

[illegible]



銀行本行他ののバー集のために制作されたオリジナル数字。全巻10冊、総頁数約1000万円。大友氏が描いたラブを基に、トキオ人を意識せられて、メロメロを小沢謙三氏が作製。近頃地下商売の能力によって完成した。

キングマシンの機軸プレゼント用に企画された「チヨロロ」。下は大阪商によるラフ。手裏の切替で実現には至らなかった。



1/15スケール全長約100mmのミニバイク。バンダイ製品。全国のミニチュア運転免許証も入った超一丁作り。



アニメの宣伝用商品として制作された原作大倉田のイタ、キャンペーンでイギリスに渡ったまま行方不明に。現在はイギリスのロニアが保護しているという説もある。





AUTHENTIC SF ACTION!

OTOMO KATSUHIRO

AKIRA 5

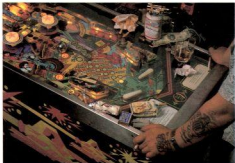
12.11 ON SALE

SPECIAL PRICE

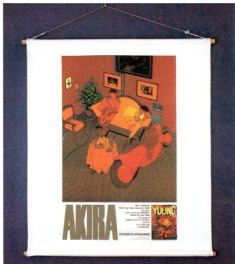
1,000YEN

KODANSHA





製作中のバイク。製作のために制作されたオリジナル・ピンボールマシン。原作者が提供してくれたマシンに、大友氏のアニメの絵の面々を貼り張りして完成した。また、上の写真に出ていゝのは大友氏の部屋。自らが入れ違を飾ったものである。



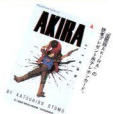
ヤングマガジン 31年1月9日の読者プレゼント用に「AKIRA」タブストーリーが製作された。限定10枚のプレゼントで、現在プレミア価格で取引されているものもある。



AKIRA 漫画・映画化の
きっかけとなった

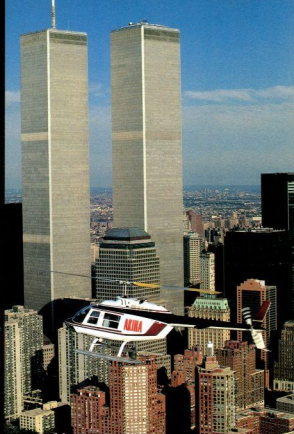


主人公のバイクに乗る
きっかけとなった





映画の登場案内板。撮影地はアメリカの
アトランタ。

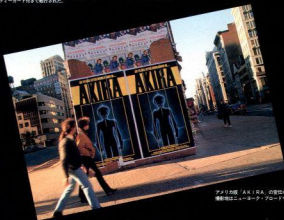


フジテレビ映画「AKIRA」の広告塔。撮影
地はコロンビア・エンタテインメントが所有する
ブルノービル。完成後のデザインは数100
人に発表するほどの努力の入れようだった。

アメリカでのアニメ公開を記念して、ニュー
ヨーク市でサンタマリア美術館が設けられ
た。自由の女神の像を背景にヘリコプター
が飛んだのは、1988年12月18日号だった。



サンダーバグ 18年11月18日号のグラフィック写真集、ニューヨーク・ブロンクスでのロケは
ホッケーガードによって撮影された。



アメリカ版「AKIRA」の宣伝ポスター。出版元はマーベリック。
撮影地はニューヨーク・ブロードウェイ。



Neo-Tokyo is about to E • X • P • L • O • D • E



AKIRA

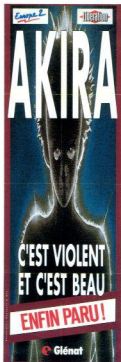
Based on the Graphic Novel by KATSUHIRO OTOMO

Art Director TOSHIHARU MIZUTANI • Chief Animator TAKASHI NAKAMURA •
Scenario IZO HASHIMOTO • Music SHOJI YAMASHIRO • Producer RYDHEI SUZUKI
Character Design / Script / Direction KATSUHIRO OTOMO

Released by STREAMLINE PICTURES

© 1989 AKIRA COMMITTEE

AKIRAは、1988年に公開された日本映画である。



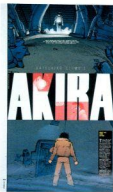
グレン社が刊行したポスター。「暴力的で、美しい」というキャッチコピーが記されている。



KATSUHIRO OTOMO DE AKIRA © 1988



インドネシア版の宣伝ポスター。



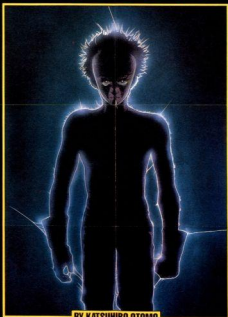
国際版「AKIRA」の観客プレゼント用ポスター。

講談社コミックの表紙・パンフレット、海外出版社への映画紹介に使用された。



38 YEARS AFTER WORLD WAR III...

AKIRA



BY KATSUHIRO OTOMO

ENGLISH LANGUAGE ADAPTATION BY JO DUFFY • COLORED BY STEVE GLIFF
FULL COLOR/64 PAGE/BOOKSHELF FORMAT SERIES • MONTHLY FROM EPIC COMICS

AKIRA 1巻は、戦後の東京を舞台にした、少年の物語。戦後の東京は、戦前の東京とは全く異なる。戦後の東京は、戦前の東京とは全く異なる。戦後の東京は、戦前の東京とは全く異なる。

THE INTERNATIONAL AKIRA: 1988-1994

1988年 アメリカ映画協会「好む映画10部」：コミックブック版(8巻)版ソフトカバー、オールカラー(4ページ)で全10巻。刊行開始。

1999年 フランス(119社)、イタリア(119社)、スペイン(100社)、ブラジル(100社)
中東5カ国(44社)ソフトバンク、オールカマー(4カ国)全通、NTTdocomo

1991年 ドイツ出版された、『日本橋ハートカラム、オムルカテ=120ページ全1冊』の2冊
目録。

インドネシアの BUKU MEDIA KOMPUTING 社、(株)ロジックパワー、モンタロー社(ベトナム全社)が刊行開始。
アメリカの書籍出版社は、アルバニ(株)ロジックパワー、オールウェル、

『12ページで全13巻』刊行開始。
 フラッシュ出版部、ブックストア版(A4版)ハードカバー、オールカラー12ページ
 (12ページで全13巻)刊行開始。

アメリカのBAPTIST 伝道所は、宣教師派遣先として多くのハードワーカー、オールスター（全米各地）を派遣。

1992年 フランス版出版社、ブックスラア版(A4版ハードカバー、オールカラー112ページで全1巻)をカタログ販売開始。

「アムステルダム」の「アム」は「水」を意味する。アムステルダムは「水の都」と呼ばれる。アムステルダムは「水の都」と呼ばれる。アムステルダムは「水の都」と呼ばれる。

1994年 イギリス財団社、「第5回ソフトカー、オールカラー全巻」刊行開始。

他に40000が数々の国語記されている。契約した各島の領土を詳細図を合計すると約1000万
 個に達する見込み。15年程度も出版申し込みは増えている。フィリピン、オーストラ
 リア、インドネシア、マレーシア、タイランドの国語と交通語である。

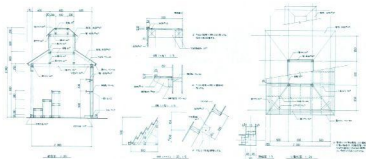


AKIRA

ANDAKI



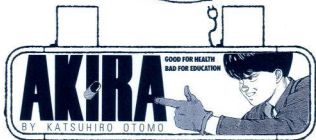
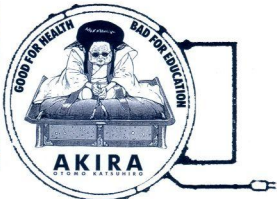
発行主と協力メーカーのために「AKIRA」
 オースタが建てられることになった。これはそ
 の最初のイメージである。(参考資料「世界のオ
 スタ」TOTO出版)



上のイメージスケッチも設計者が現場で設計図に起こしたが「上の設計図」，それでは手書きオーバーする
 ことが多かった。次に、自治体側の水道局等に手書きで建てられるような設計図を依頼した。それを基に
 スターアート工務の協力により、建設中のスタジオに「AKIRA」オースタは建てられた。



キオスクに設置した並光看板2種類。上のは長さ18cm、下のは高さ118cm、実際に走車のように作られたが、ナリミシタの都合で、並行本のカラー版には写っていない。



設定・機軸にほり目を落した。その間スタジオ内には芝居場がいくつか、大流次は記念撮影に誘われた。それは大流次が初めてであるが、同僚の職工の編集、予定を上回る準備が整った。シムススタンドに入っている新聞は半額!「大流次浮かせられる」という見出しもある。直前にある準備用写真機の前にはすべて「AKIRA」ブランドのラベルがはいてある。撮影日と場所は制作会社の機材置き場から調達された。



AKIRA

BY KATSUHIRO OTOMO

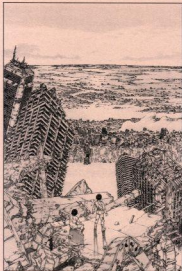




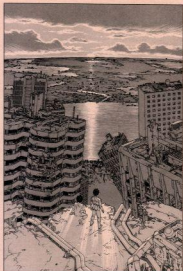
THE MEMORY OF ANTIPOA LIVES ON IN OUR HEARTS!

UNPUBLISHED WORKS

Why did they get killed?



『AKI R A』のNG原稿ページ。



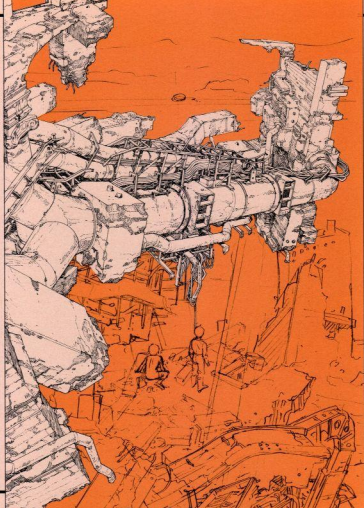
ヤングマガジン 1989年4月25日号に掲載された最終回最終ページ。

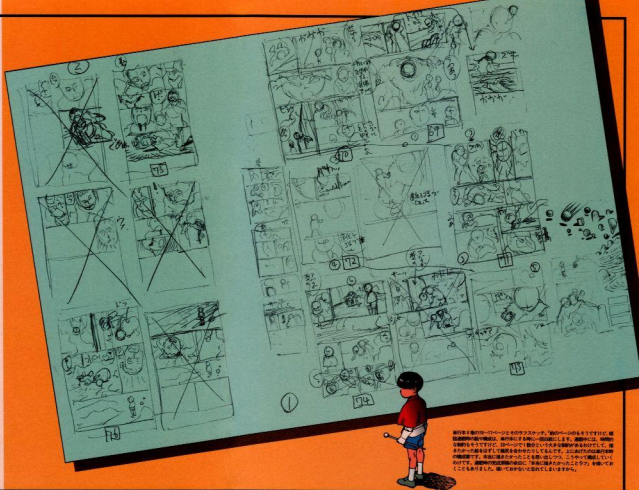


『AKI R A』のNG原稿ページ！大友氏の机の中で眠っていたものを引っ張り出してきて、ヤングマガジンが雑誌になったのに隔週でしか掲載していないとか、単行本がなかなか出ないとか、大友氏の仕事に対する非難は数多く受けたが、これでその原因が少しはわかっていたのではないかなと思う。NGの価値は大きく分けて二つ。①雑誌にも出なかったボツ、②雑誌には載ったが単行本には載せなかったボツ。多いのは②のパターン。上の図も②のパターンでボツになったものだ。「単行本の絵と見比べていただければわかると思いますが、雑誌掲載時のものは建物の傾き方が甘い。これは時間的制約で先方に子を入れられなかったからですが、単行本にするにあたって、ここぞとばかりに描くも、左ページのようなNGも生まれてしまう。描き込みすぎて、解像感がない絵やバランスの崩れた絵になってしまいます。」

大友氏の机の中には数多くのNG原稿が眠っている。

『AKI R A』のNG原稿ページ！大友氏の机の中で眠っていたものを引っ張り出してきて、ヤングマガジンが雑誌になったのに隔週でしか掲載していないとか、単行本がなかなか出ないとか、大友氏の仕事に対する非難は数多く受けたが、これでその原因が少しはわかっていたのではないかなと思う。NGの価値は大きく分けて二つ。①雑誌にも出なかったボツ、②雑誌には載ったが単行本には載せなかったボツ。多いのは②のパターン。上の図も②のパターンでボツになったものだ。「単行本の絵と見比べていただければわかると思いますが、雑誌掲載時のものは建物の傾き方が甘い。これは時間的制約で先方に子を入れられなかったからですが、単行本にするにあたって、ここぞとばかりに描くも、左ページのようなNGも生まれてしまう。描き込みすぎて、解像感がない絵やバランスの崩れた絵になってしまいます。」



[illegible]



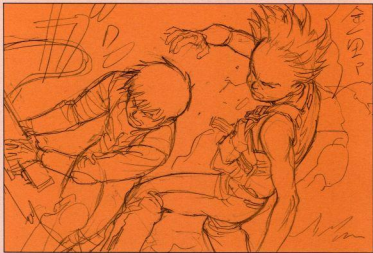
1/4-3/4の構図



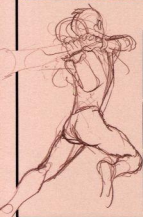
最多NG発生。殴るシーンが難しい。

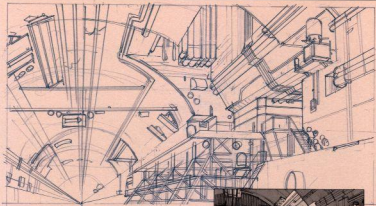
金田が殴るシーンはものすごく悩みました。主人公たちが素手で戦う場面が多かったので、非暴力的なシーンにしたかったんです。暴走漢の叫びも土のうにずいぶん練習してダッサンして顔に付けて、出来上がった顔を見ても気に入らない。で、また、早行本で読んでいます。それにしても、「殴る」シーンは難しいです。殴る前、殴る瞬間、殴った後、それぞれの方角が違ったり、またアングラな構図なのもあり。それは一番サマになるかは、ダッサンしてみないとわからないんです。カッコよすぎても駄目だし、コマのサイズも変化もつけたい。なんて思いが交錯して、いやや内にこのシーンは苦労しました。

原稿手のために構図を直す時、原稿は太田氏の手によって切り刻まれる。この構図も大抵に切り刻まれ、太田氏の平気な保管されていたもの。連載第184回(10-15ページ)にある。

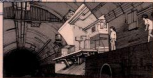


上は修行本陣に踏み出す時に発生した大規模な戦闘。結局、修行本陣では下のような絵と構成になっている。修行本陣巻の122～123ページに当たる。





近江舞子第3巻の18ページ、上はその内から下書き。「下書きしては、原稿が太く多くなりすぎてしまいました。なんだや、大船を海に沈めたいなって思ってた……、もっと現実的な表現にしたかったので書き直しました」

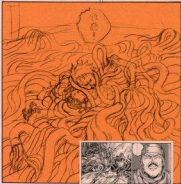


上は舞子第3巻の14ページ、下はその内から下書き。「コマの中に人物の顔の円を収められなかったんです。下書きしては、人物が太く多くなりすぎてしまいました……。情しかなんです」



右は舞子第3巻の11ページ、上はその内から下書き。「上のやつもヘリコプターのつもりなんです。でも、これじゃ何がやうにない、あまりにも原始的になったことを意識しながら、リアルなヘリコプターに書き直しました」





右は原作第2巻の08ページ、上はそのNG下書き。「教師がコードの中から現れるシーンです。でも、上のNGは、隠れるって言うより、コードに飲み込まれているというか、コードの中でもがいているというか、教師が苦しんでいるようにしか見えません。で、書き直したわけです」

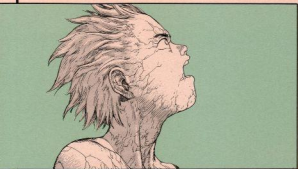


下は原作第2巻の09ページ、右はそのNG下書き。「NGはローアングル。ローアングルだと読者の視線は教師の顔に行きます。このシーンでは、隠れた顔に読者の視線を奪めたかったのでもう少ししました。また、身体の一部だけ見せた方が緊張感が出るかと判断しました」



左は原作第2巻の09ページ。上はそのNG下書き。「読者の方というか、読者の持つ力というか、そんなものを表現したくて、書き直したんだと思います。でも実際に書き直したやつの方がカッコいいでしょ。こういうシーンはカッコいい物が読者の心を掴むのが勝負です」



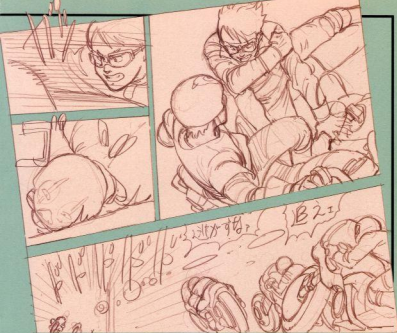


実は鉄雄と金田は『鉄人28号』にモデルがいます。

鉄雄について一言。実は、鉄雄という名前は横山光輝さんが描いた『鉄人28号』からいただいています。鉄人を作った数島博士の息子の名前が鉄雄っていうんです。金田の名前も鉄人を模倣する金田正太郎くんからいただいています。まあ、話自体も『戦争中の秘密機関兵器をよみがえらせる』という基本コンセプトをいただいているわけで『人狼（人狼）』のモデルは『鉄人28号』と言っても過言じゃないくらいです。



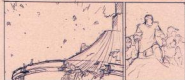
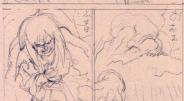
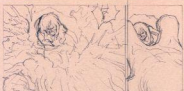
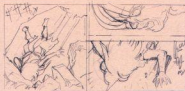
左は『鉄人28号』第1巻の12ページ。上は『人狼』第1巻の54ページ。『鉄人28号』のものも『人狼』に描き直したものです。同じ性質を備えたかったわけじゃありません。むしろ鉄雄の顔から鉄雄の顔に似てきたところ。横山さんのシーンやポーズが『人狼』に描かれています。あれをいったんおぼろげに鉄雄の顔にしたら方がいって思いました。



迫力のバイクシーン。スピードとテンポが構図と締め切りに優先した。

単行本1巻の130ページあたり。バイクシーンです。上の下書きは連載中のものです。これは構図的にも気に入っていて、しっかりと下書きしたにもかかわらず、忘れにしました。しかも締め切りギリギリだったというのに……。このままだと、いったんバイクから降りて戦っている感じがするでしょう。このシーンは、登場人物がちゃんとバイクに乗ったまま、バトルしているようにみせたかったんです。そのために、ロングショットにして、120%アクションをひとつの構図に入れて、できるだけ時間が止まらないよう意識して描き直しました。右にあげたのが直したものです。バイクにのっただままだとバトルしているよう見えませんか。スピードとテンポ。それがバイクシーンの命。カッコつけて、そう言っておきましょう。





下は単行本1巻の211〜214ページ、上は雑誌掲載時のNO.7版。『セヤコのラストシーン』ですね。2ページで下書きしてみたんですけど、どうもあっさりしすぎてしまって4ページに書き直しています。おばあちゃんもがんばってなんだよ、というメッセージを伝えたかったんです。そのために、間を空けたらとったりして、死ぬまでに時間をかけました。セヤコのサカサに對する思いも出たかった。まあ、このラストシーンならセヤコも満足して臨んでくれるのではないでしょう。



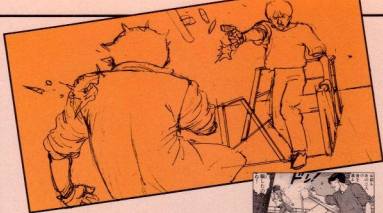


右上の表情は雑誌掲載時「第4回11ページ」のもの。原行幸也の顔に土の質感に描き加えられた。原行幸也11ページにあらた。「雑誌に載る時は次回へのヒキも考えて、雑誌的に派手なイラストを描いていました。その時がこの雑誌の最後ですね。原行幸也にする時は、もっと大きな流れを考えて、劇的な表情にしています。」



下は原行幸也の11ページ。右と上はその右下描き、「マサルの悲劇に終る。悲劇が引きつらに描かれたことによって終るシーンです。下描きでは悲劇が引きつらに描かれたので、やっぱりちょっと違う。マサルの死と仲間たちの悲しみを描かなきゃいけないと思い直して、描き直しました。彼らの心を描かないと、そのメンバーが単純な能力者になってしまいますから。これなら、彼らが人間として生き生きしていることがわかっていただけるのではないのでしょうか」





単行本3巻の11ページとそのN.G.下書き。「なんてアンダルな変えたのか!」なんてでしょう。今となってはよくわかりませんが、毎週するに、セリフの流れる考えたのでしょうか。下書きでは、「驚いたのか!」が右上に入る予定でしたが後ろ向きで重なるセリフを書いたはずと判断したのだと思います。

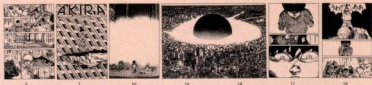


左は単行本3巻の11ページ、下は雑誌掲載時の原稿。「なんと驚くても空海の爆発シーンです。スベタタタタです。やっぱりでかいコマで見せたいと思ってまして、爆発しました。連載中はどうしてもコマを小さく描いてしまいました。」



右は単行本3巻の11ページ、上は雑誌掲載時の原稿。「戦争が火照るよっ放すシーンです。単行本にする時に、思いっきりおメガを引いて、大敵の地の中の2人という図に置き換えています。実際に、こうはならないと思うんですが、おメガを引いたらやめてしまいました。リアルなだけじゃつまらないでしょ。」

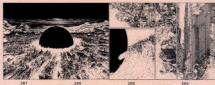
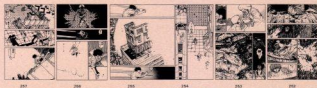




ジの名が叫び続けます。船番に乗ると、見聞きの船がページをまたぐとこも出てきますから、肉親成る必要があるわけです。それで、爆発シーンと登場人物のリアクションの船番を考えて単行本では左の構成にしました。時間でもひとつのシーンで数多くのショットを撮り、編集しますがそれに正解があるわけではありません。すべては、編集する人間の感性に委ねられているのです。描く前にふくらんでいたイメージは、実際に描きだすとひとつひとつしぼんでいくような気がします。こんなはずではなかったのに……という軽い失望を感じながらも漫画家は先に進むしかないのです。



戦国時代時の構図。第14回の19〜20ページ、第17回の1〜20ページ、第18回の1〜20ページ、第23ページの。



単行本時の構成。単行本1巻の218～247ページ、
計28ページ。

単行本用に再編集してみたが、どの 構成が正解か未だにわからない。

この明確シーンでは両の手に描きたいものが集まっている。『バビロニアの王』など、明確な世界観を描いた作品はありますが、大規模なストーリーの真ん中にあるのはなかったように思います。それを『A.I.R.』で実現したかったのです。しかも、納得できる構成をしている時間的余裕が連載中にはありません。しかも、単行本にする際には、雑誌掲載時の構成をはずすので、ペー



巻に同じ、市原なら暴行する巻の18ページの絵に入っ。「魔物アンケート」の人数も増えちゃったから、連載中はラストページの印象を大事にしています」



暴行する巻に同じ18ページの市原なら暴行する巻の18ページの絵に入るもの、「連載時にお手として描いたものです。なくてもいいかな、と書いてまして、



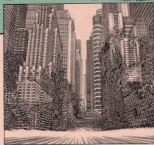
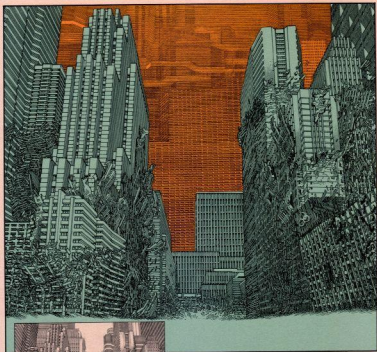
市原なら暴行する巻の18ページ、上はその巻になった原稿。「コビーらしの特長効果です。意外と難しいんです。コビーの光に合わせた顔を描くずるずるで、お前やっても、うまいかいないことがありました。今のデザインはコビーにもっとも効果的なんです。うげんね」

アキラのイメージモデルはアニメ映画『西遊記』に出ています。

アキラはアニメ映画『西遊記』に出てくる小僧という小僧をイメージしながら描いていました。その描きかたが好むので、アキラを子供に決めた時から、小僧をモチーフにさせていっただこう思ってたんです。アキラという名前にも小僧がいます。「じゆうを我らに」の短歌をしている時に、隣のスタジオから「アキラー! アキラー!」と、記憶の戸がしゅっしゅう開いてくるんです。どうも、そういう名前の関係性がいるらしい。映画でアキラと言えば無言のうちに、そのギャップがわかるくらいで、いつか描く作品にはアキラを登場させるぞ、と、こんな長編のタイトルになるとは思いもしませんでしたけど。



▲ 西遊記の小僧とアキラ



左は東京都千代田区の日比谷。上は東京都千代田区に建てられた国産最大の住宅にしたもの。「いい人は住む人ですが、メカがないというか、壁に当たって通んでいるみたいで、嫌な顔して、壁が通るようになりました。実際のところ新しい住居に何こうってイメージが全然じゃないでしょう。また、このシーンにはビルが建ち始めましたから、一歩踏み出したことを覚えています」

[illegible][illegible][illegible]

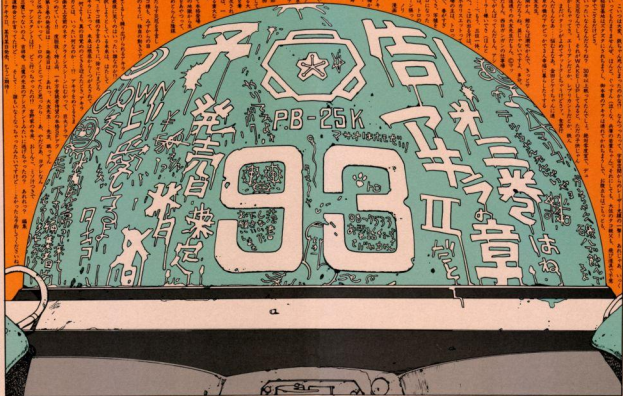
女性II

「K」
「ha」
「K」
「ha」
「K」
「ha」

B-25

A stylized illustration of a city skyline with buildings and a large 'P' logo. The illustration is in a retro, hand-drawn style with a limited color palette. The city skyline is composed of various building shapes, some with windows, and a large, prominent 'P' logo. The background is a solid color, and the overall aesthetic is reminiscent of mid-20th-century graphic design.

天竺白葉定

[illegible][illegible][illegible]

旅行主目に入る予定だった幻の
沈黙手帳。ページが足りないため
にお蔵入りになった。言葉に驚き
つめた文字は、当時の経営者が選
び持った時間だ。セマにあがって
書き上げたものである。「旅行主
目」が出る前に、早く出版するよ
うに署名運動してくれた人はいま
も。ありがたいです。

1982	12/16 第1回 (26P/ヤングマガジン24号)	1984	09/21 単行本1巻発売
	12/20 第2回 (20P/ヤングマガジン1号)		10/01 第40回 (20P/ヤングマガジン20号)
1983	01/06 第9回 (20P/ヤングマガジン2号)		10/15 第40回 (20P/ヤングマガジン21号)
	01/17 第4回 (20P/ヤングマガジン3号)		11/25 第45回 (17P/ヤングマガジン22号)
	02/07 第5回 (20P/ヤングマガジン4号)		11/19 第46回 (20P/ヤングマガジン23号)
	02/21 第6回 (20P/ヤングマガジン5号)		12/03 第47回 (20P/ヤングマガジン24号)
	03/07 第7回 (20P/ヤングマガジン6号)		12/17 第48回 (23P/ヤングマガジン1号)
	03/19 第8回 (20P/ヤングマガジン7号)	1985	02/18 第49回 (16P/ヤングマガジン2号)
	04/04 第9回 (20P/ヤングマガジン8号)		03/04 第50回 (18P/ヤングマガジン3号)
	04/18 第10回 (20P/ヤングマガジン9号)		03/18 第51回 (16P/ヤングマガジン4号)
	05/02 第11回 (20P/ヤングマガジン10号)		04/01 第52回 (16P/ヤングマガジン5号)
	05/16 第12回 (20P/ヤングマガジン11号)		04/15 第53回 (18P/ヤングマガジン6号)
	06/06 第13回 (20P/ヤングマガジン12号)		05/04 第54回 (18P/ヤングマガジン7号)
	06/20 第14回 (20P/ヤングマガジン13号)		06/20 第55回 (18P/ヤングマガジン11号)
	07/04 第15回 (20P/ヤングマガジン14号)		06/20 第56回 (18P/ヤングマガジン12号)
	07/18 第16回 (20P/ヤングマガジン15号)		07/15 第57回 (16P/ヤングマガジン15号)
	08/01 第17回 (20P/ヤングマガジン16号)		08/25 第58回 (18P/ヤングマガジン17号)
	08/15 第18回 (20P/ヤングマガジン17号)		09/02 第59回 (18P/ヤングマガジン18号)
	09/05 第19回 (20P/ヤングマガジン18号)		09/04 単行本2巻発売
	09/19 第20回 (20P/ヤングマガジン19号)		09/21 第60回 (20P/ヤングマガジン19号)
	10/03 第21回 (20P/ヤングマガジン20号)		10/21 第61回 (20P/ヤングマガジン21号)
	10/17 第22回 (20P/ヤングマガジン21号)	1986	11/02 第62回 (20P/ヤングマガジン22号)
	11/07 第23回 (20P/ヤングマガジン22号)		11/18 第63回 (16P/ヤングマガジン23号)
	11/21 第24回 (20P/ヤングマガジン23号)		12/02 第64回 (18P/ヤングマガジン24号)
	12/05 第25回 (20P/ヤングマガジン24号)		12/16 第65回 (18P/ヤングマガジン1号)
	12/19 第26回 (20P/ヤングマガジン1号)		
1984	01/06 第27回 (20P/ヤングマガジン2号)		
	02/06 第28回 (20P/ヤングマガジン4号)		
	02/20 第29回 (20P/ヤングマガジン5号)		
	03/05 第30回 (20P/ヤングマガジン6号)		
	03/19 第31回 (20P/ヤングマガジン7号)		
	04/02 第32回 (20P/ヤングマガジン8号)		
	04/16 第33回 (20P/ヤングマガジン9号)		
	05/04 第34回 (20P/ヤングマガジン10号)		
	05/17 第8回読者投票発表		
	05/31 第35回 (14P/ヤングマガジン11号)		
	06/04 第36回 (21P/ヤングマガジン12号)		
	06/18 第37回 (20P/ヤングマガジン13号)		
	07/02 第38回 (17P/ヤングマガジン14号)		
	08/06 第39回 (20P/ヤングマガジン16号)		
	08/20 第40回 (20P/ヤングマガジン17号)		
	09/03 第41回 (26P/ヤングマガジン18号)		
	09/17 第42回 (17P/ヤングマガジン19号)		

1987	01/06 第43回 (17P/ヤングマガジン2号)	1989	06/05 第100回 (16P/ヤングマガジン17号)
	02/02 第44回 (17P/ヤングマガジン4号)		06/19 第101回 (16P/ヤングマガジン18号)
	03/16 第45回 (17P/ヤングマガジン7号)		06/23 「国際版 AKIRA ①」発売
	04/06 第46回 (20P/ヤングマガジン8号)		07/03 第102回 (16P/ヤングマガジン21号)
	07/10 単行本4巻発売		07/17 第103回 (16P/ヤングマガジン22号)
1988	05/28 「AKIRA ビデオライズ」(ビデオ&映画鑑賞会)発売		07/31 第104回 (17P/ヤングマガジン25号)
	07/04 「AKIRA WORLD」発売		08/01 第105回 (16P/ヤングマガジン26号)
	07/06 「POSTER & GRAPH AKIRA」発売		08/04 第106回 (14P/ヤングマガジン27号)
	07/15 「AKIRA PRODUCTION REPORT—文芸界のヤマトと映画アカラ—ビデオ」発売		10/16 第107回 (23P/ヤングマガジン28号)
	07/16 映画「AKIRA、全国一斉公開」		10/20 「国際版 AKIRA ②」発売
	「AKIRA 劇場版パッケージ」発売		10/30 第108回 (15P/ヤングマガジン30号)
	「AKIRAのテーマ・ミュージック」発売		11/13 第109回 (17P/ヤングマガジン33号)
	「アカラ絵コンテ集①」発売		11/27 第110回 (17P/ヤングマガジン34号)
			12/11 第111回 (17P/ヤングマガジン21号)
	07/25 「AKIRA PRODUCTION REPORT」(レーザードиск)発売	1990	01/05 第112回 (17P/ヤングマガジン6号)
	07/27 「Symphonic Suite AKIRA」(LP & CD)発売		01/22 第113回 (12P/ヤングマガジン6号)
	08/01 「AKIRA mechaX 2019」発売		02/05 第114回 (17P/ヤングマガジン10号)
	08/10 「AKIRA オリジナルサウンドトラック」(LP & CD)発売		02/16 第115回 (18P/ヤングマガジン12号)
	08/12 「アカラ絵コンテ集②」発売		02/23 「国際版 AKIRA ③」発売
	08/29 「アニメK アキラ①」発売		03/15 第116回 (21P/ヤングマガジン16号)
	09/11 「アニメK アキラ②」発売		05/07 第117回 (13P/ヤングマガジン23号)
	10/01 「国際版 AKIRA ④」発売		05/14 第118回 (19P/ヤングマガジン24号)
	10/13 「アニメK アキラ③」発売		05/29 第119回 (15P/ヤングマガジン26号)
	11/05 「アニメK アキラ④」発売		05/31 「国際版 AKIRA ⑤」発売
	11/07 第66回 (15P/ヤングマガジン22号)		06/11 第120回 (16P/ヤングマガジン28号)
	11/21 第67回 (20P/ヤングマガジン23号)		08/31 「国際版 AKIRA ⑥」発売
	12/01 映画「AKIRA」(ビデオ)発売		12/10 「国際版 AKIRA ⑦」発売
	12/05 第68回 (20P/ヤングマガジン24号)		12/11 単行本5巻発売
	12/06 「アニメK アキラ⑤」発売	1991	04/20 「国際版 AKIRA ⑧」発売
	12/15 映画「AKIRA」(レーザードиск)発売		09/26 「国際版 AKIRA ⑨」発売
	12/24 フェニコン「AKIRA」発売	1992	06/20 「国際版 AKIRA ⑩」発売
	ファミコン「AKIRA」完全攻略本発売		
1989	01/06 第69回 (15P/ヤングマガジン2号)	1993	03/23 単行本6巻発売
	01/17 第70回 (15P/ヤングマガジン3号)		03/25 「スペシャルコレクション AKIRA」(3枚組レーザードиск)発売
	02/06 第71回 (20P/ヤングマガジン4号)		06/21 「AKIRA」(5巻特ビデオ)発売
	02/20 第72回 (15P/ヤングマガジン6号)	1995	
	03/06 第73回 (20P/ヤングマガジン6号)		06/09 「AKIRA CLUB」発売
	03/17 「国際版 AKIRA ②」発売		
	03/20 第74回 (17P/ヤングマガジン7号)		
	04/17 第75回 (15P/ヤングマガジン10号)		
	04/17 第76回 (15P/ヤングマガジン10号)		
	05/08 第77回 (17P/ヤングマガジン13号)		
	05/22 第78回 (17P/ヤングマガジン15号)		



AKIRA
ILLUSTRATIONS
1982-1993

created by

art director

designer

assistant staff

printing supervisor

typesetting

edited by

editorial support

special thanks to

アキラ クラブ AKIRA CLUB

KATSUHIRO OTOMO

AKIRA SAITO (Pencil Studio)

AKINO YOSHIDA

YASUMITSU SUETAKE, SATOSHI TAKAHATAKE
MAKOTO SHIGAKI

HIROYUKI KOSHI (Tappan Printing Co., Ltd.)

SENKOSHA

KOCHI YUJI, YASUMASA SHIMIZU, JUNJI SEKI
HISATAKA NISHITANI, HIROAKI MORITA
KEIICHI OHNOH (KODANSHA)

ISAMU YOSHIDA, YUKA ANDO, YOSHIMASA MIZU
KEN TSUNODA (KODANSHA)

AKIHITO TAKADERA, AKIHITO HAKAMADA, AKIRA SASO, AKIRA TAGITA, ARCHIE GOODWIN, FUKINO NAGAHASHI,
FUMIO IIDA, GO MOMOHARA, HARUKI IZUMI, HAZUKI IWAMOTO, HIDEKI ISHIKAWA, HIROSHI HIRATA,
HIROFUMI KITANO, HISASHI KUROHARA, KATSU YOSHIDA, KATSUZO IZAWA, MASAYUKI KUSUMI, MINETARO MOCHIZUKI,
MITSUTERU YOKOYAMA, NAOMI KIMURA, SATOSHI KON, SHINJI KUBOTA, SHINJI SUGIYAMA, SO MINAMIDA,
STEVE OLIVE, TADUHI NAGAHASHI, TETSUO HANABUSA, TOSHITO IZAWA, YUKO OTOMO, YUKARI AKAHOSHI,
ASAOKA MATSUYUKI SHOUTEN, ATHER MORITA, BANDAI CO., LTD., GATOSHA, GEINO YAMASHIRO-GUMI
IRA, NIKKO Inc., PIONEER LOC, SUDO ART KORO, TAITO CORPORATION, TOEI ANIMATION CO., LTD.
and the many others who commissioned AKIRA



株式会社
ROOM
COMPANY LTD.
BY
KATSUHIRO OTOMO

1995年6月9日 第1刷発行
(定価は表紙に表示してあります)

著者 天宮良平
発行者 山形隆
発行所 株式会社ROOM社
〒112-01 東京都文京区音羽2-12-21
電話 編集部 (03) 5395-9461
販売部 (03) 5395-9608
印刷所・製本所 凸版印刷株式会社



©1995 MASH-ROOM

※本書の複製・転載・翻訳は厳禁とさせていただきます。

Printed in Japan N.D.C.T.W. 351p 28mm

■著者本、絵・下書きは凸版印刷株式会社より提供され、印刷・仕上げは凸版印刷株式会社にて行われています。
なお、この本の印刷についてお問い合わせの際はヤングマガジン編集部にお問いかけください。

ISBN4-06-330003-X (ヤマ)

O T O M O K A T S U H I R O



この本でやっと「アキラ」にピリオドを打つ事が出来ました。
終わって見れば長いような短いような……
良く描いたなアと云う気もすれば描き足らなかったような気がします。
まァこんなところでしょうか……
何年か前、どう云った心境で書いたのか忘れてしまいましたが
画板の隅に書いた句をひとつ。
「メシ喰えば、泣けど笑えど糞の出る」
食事中の人は御免なさい。
では、又、次の作品で——。

1995. 大友克洋

THE MEMORY OF AKIRA LIVES ON IN OUR HEARTS!



9784063300031



1910979035004

ISBN4-06-330003-X

C0979 P3500E (0)

講談社 定価3500円(本体3398円)

